

総合ビジネス・情報学科

職位	役職	氏名
教授	科長	小森 潔
教授	副科長	内海 太祐
教授	理事長・学長	高野瀬 一晃
教授		飯塚 順一
教授	経理・金融コース主任	加藤 美樹雄
教授		山形 俊之
准教授		石崎 琢也
准教授		高木 亜有子
准教授	情報メディアコース主任	高嶋 章雄
講師	ビジネス情報コース主任	金澤 良晃
講師	オフィスワークコース主任	北川 栄里子
講師	ショップマネジメントコース主任	鈴木 孔明
講師	観光ビジネスコース主任	畠山 望
講師		毛利 香奈子

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	教授
教員氏名	小森 潔

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科に所属しており、主に日本語コミュニケーション能力育成に関する科目とキャリア形成の意識を高める科目を担当している。また、兼任担当教員として、総合ビジネス・情報学科と生活プロデュース学科を対象とした日本語・日本文化関連科目も担当している。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。

- 1) 社会人として必要な日本語運用能力の育成
- 2) 自らの進路を考えるキャリア意識の醸成
- 3) 現代社会の抱える諸問題について考察する力の養成

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の教育理念を達成するため、総合ビジネス・情報学科の「言語表現とコミュニケーション」、リベラルアーツ科目の「日本語コミュニケーション」では、社会人として必要な日本語運用能力の向上と仕事に不可欠な語彙力・読解力の向上を目標とし、話し合いの仕方、説明の仕方、発表の仕方、文書作成などについて実践的に学ぶトレーニングを繰り返し行っている。その際、グループワークでは友達同士のグループは作らず、ふだん交流のない人たちとも交流できるようなグループ分けをし、また「相互評価シート」も活用し、社会性を身に付けることができるよう工夫している。語彙力の向上については、毎回、漢字の読み書きの小テストを実施している。読解力の向上については、毎回、「読解力トレーニング(新聞記事・エッセイ・評論・公文書・ビジネス文書など)」を実施している。

総合ビジネス・情報学科の「プレゼминаール」では、自らの力で将来の進路を考えていくキャリア意識の醸成を目標とし、「働くって何?」「情報化社会とビジネス」「私の仕事」「コース別就職講座」「社会で活躍する卒業生に聞く」等々の具体的なテーマを設定している。

総合ビジネス・情報学科の「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、リベラルアーツ科目の「現代日本文化論」では、現代社会の抱える諸問題について考察する力の養成を目標とし、「狂言」「落語」「歌舞伎」などの伝統芸能や古くから受け継がれてきた日本の食や衣、日本独自の美意識を継承した現代の様々な表象文化を具体的に理解できるような授業実践を心がけている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度前期授業評価アンケート結果
「言語表現とコミュニケーション」では、設問2(予習・復習)9つの設問の内8つは総合ビジネス・情報学科の科目全体の平均値を上回った。ただし、設問2(予習・復習)が2.15と平均値(2.25)を下回ったことについては、次年度以降の改善が必要と考える。

「日本語コミュニケーション」では、今回はすべての数値がリベラルアーツ科目全体の平均値を上回った。特に設問2(予習・復習)は3.38と平均値(2.11)を大きく上回り、学生が自主的に学習に取り組んだことが看取できた。

アクティブラーニングを重視した授業実践によって学生の主体的取り組みを促し、学生がさらなる能力向上を望むようになるよう工夫を重ねていきたい。

2022年度後期授業評価アンケート結果
「ゼミナールⅢ」では、仕事に役立つコミュニケーション能力の向上、特にプレゼンテーションのスキルを高めるという観点から、受講生が興味を持って積極的に取り組める授業構築を工夫した。その結果、設問7(オンライン授業における情報システムの有効活用)を除く12の設問の内11は総合ビジネス・情報学科の科目全体の平均値を上回った。その内、3つの設問は「4.00」という高い数値であった。ただし、設問2(予習・復習)が「1.50」と学科平均値(2.15)を大きく下回った点については、次年度の改善が必須と考えている。学生に具体的な個人目標を設定させ、毎回の課題を義務付けるなどして、予習・復習に積極的に取り組むことによって自分の力がさらに向上していくことを実感させつつ、授業を進行していきたい。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

学内で開催されるFD研修には必ず参加している。また、授業公開・見学にも積極的に参加し、自己研鑽に努めている。教員個人としては、教務課から返却される授業評価アンケートの結果を精査し、その期の授業について反省している。また、日本語系の科目については独自の授業評価アンケートを実施し、授業改善の一助としている。次年度のシラバス作成の際には授業時における学生の反応も参考にしながら、新たな知見を取り入れたシラバスとなるよう心がけている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期的目標

- 1) 学生の主体的な学びにつなげる事前・事後学修の検討
- 2) 学生が主体的に取り組める学習教材の開発
- 3) 仕事に本当に必要な日本語運用能力についての検討(企業からも意見を聴取)

II. 中・長期的な目標

社会人として必要な日本語運用能力を確実に身に付けた学生の養成を目標に、アクティブラーニングを重視した授業実践によって学生の主体的取り組みを促し、学生がさらなる能力向上を望むようになるよう工夫を重ねていきたい。また、社会の様々な事象に関心を持ち、自ら考え、その考えを表現し実行できる人材の育成を目指す。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜・2限 22547001 [言語表現とコミュニケーション] 小森 潔】

言葉に関するトレーニングを繰り返すことによって読解能力や表現能力を目指す、オフィスワークコース必修科目である。同時開講のリベラルアーツ科目「日本語リテラシーⅠ」と学習内容が重複しないよう留意し、就職活動や社会生活に役立つ日本語能力の向上のみならず、コミュニケーションを楽しむという根本的な観点からも、受講生が興味を持って積極的に取り組める授業構築を工夫した。その結果、9つの設問の内8つは総合ビジネス・情報学科の科目全体の平均値を上回った。ただし、設問2(予習・復習)が2.15と平均値(2.25)を下回ったことについては、次年度以降の改善が必要と考える。個々の学生に具体的な個人目標を設定させ、予習・復習に積極的に取り組むことによって自分の力が向上していくことを理解させつつ、授業を進行していきたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜・3限 31LA7001 [日本語コミュニケーション] 小森 潔】

1年次の「日本語リテラシーⅠ・Ⅱ」の成績がともにA以上である者に限るという履修条件を設定し、人数も20名までとして、高度な内容の授業を展開し、コミュニケーション能力の向上を目指す科目である。2021年度後期のアンケート結果は予想したレベルには達せず、設問1(出席状況)、設問7(オンライン授業における情報システムの有効活用)はリベラルアーツ科目全体の平均値を下回ったが、個々の学生に具体的な個人目標を設定させ、自分の力が向上していることを理解させつつ授業を進行した結果、今回はすべての数値がリベラルアーツ科目全体の平均値を上回った。特に設問2(予習・復習)は3.38と平均値(2.11)を大きく上回り、学生が自主的に学習に取り組んだことが看取できた。就職後に役立つ日本語能力の向上のみならず、コミュニケーションを楽しむという根本的な観点からも、受講生が積極的に予習・復習に取り組める課題をさらに工夫したい。

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・2限 22511101 [ゼミナールⅢ] 小森 潔】

仕事に役立つコミュニケーション能力の向上、特にプレゼンテーションのスキルを高めるという観点から、受講生が興味を持って積極的に取り組める授業構築を工夫した。その結果、設問7(オンライン授業における情報システムの有効活用)を除く12の設問の内11は総合ビジネス・情報学科の科目全体の平均値を上回った。その内、3つの設問は「4.00」という高い数値であった。ただし、設問2(予習・復習)が「1.50」と学科平均値(2.15)を大きく下回った点については、次年度の改善が必須と考えている。学生に具体的な個人目標を設定させ、毎回の課題を義務付けるなどして、予習・復習に積極的に取り組むことによって自分の力がさらに向上していくことを実感させつつ、授業を進行していきたい。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	22547001	言語表現とコミュニケーション
前期	総合ビジネス・情報	2	22510601	ゼミナールⅡ
前期	リベラルアーツ(総合・生活)	2	25LA4401	現代日本文化論
前期	リベラルアーツ(総合・生活)	2	25LA4402	現代日本文化論
前期	リベラルアーツ(総合・生活)	2	31LA7001	日本語コミュニケーション
後期	総合ビジネス・情報	1	22510101	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511101	ゼミナールⅢ
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	2	25LA4403	現代日本文化論
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	2	25LA4404	現代日本文化論
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	2	31LA7002	日本語コミュニケーション

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2	22510601	ゼミナールⅡ
前期	リベラルアーツ(総合・生活)	2	25LA4401	現代日本文化論
前期	リベラルアーツ(総合・生活)	2	25LA4402	現代日本文化論
後期	総合ビジネス・情報	2	22511101	ゼミナールⅢ
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	2	25LA4403	現代日本文化論
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	2	25LA4404	現代日本文化論

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	教授
教員氏名	内海 太祐

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主にシステム開発に関する授業を担当している。2022年度の担当科目は、別記のとおりである。

DX化の進展や、それに合わせた初等・中等教育でのプログラミング教育の導入に対応して、本学の情報教育を学生の生きる力とするための教育にしよう心掛けている。

「プログラミング基礎演習」では、プログラミングを学んだことのない学生がプログラミングすることの楽しさを感じられるようにすることを目指している。

「Linux」では、社会の基盤で使われることの多いOSであるLinuxの基本的な操作ができるようになることを目標としている。

「IoT」ではモノにプログラミングを組み込み、それをインターネットに接続したり、AI機能を追加したりすることで、様々なものがネットに接続する社会の仕組みを説明できるようになることを目指している。私の教育の責任は、これらの情報教育を通じて、激変する社会に対応できる見識とスキルを身に付けさせることで、新しい社会の一端を担う人財を育てることであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は本学の教育活動において、学生の自立を促すため、次の点を重視している。

1) 受動的に覚えるのではなく、自分の頭で考えるように促すこと。

大きく変化する社会では、定型的な作業をすることはAIなどにとってかわられる。自ら置かれている環境の中で、疑問や矛盾を見つけ、それを解決することが重要である。そのためには自立した意思を持つことが大事である。

2) 受動的に聞くのではなく、自分の考えを表現できるように促すこと。

知識をインプットすることを学修だと考えるのではなく、アウトプットをするためのインプットが必要だという考え方を持たせることが重要であると考えている。専門知識は、専門性職の人たちとのコミュニケーションのために重要であり、知識を蒐集することが目的ではないことを態度として身につけさせたい。

3) 受動的に決めってもらうのを待つのではなく、自分で決断して実行できるように促すこと。

仕事や人生を進めていくうえで、大小さまざまな岐路がある。どのルートを選ぶかに正解はないが、それに対して自分なりの答えを持ち、自分で選択できるようになってもらいたい。

4) 事実を教えるだけでなく、関係性を理解させること。

知識を教え込むことは、教育の一つの側面としてあるが、知識がインターネットにあふれた時代では、正しい知識体系を自分の中に形成するための方法を身につけること、その環境を作り、成長を促すことがより重要となると考えている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上述の考え方を実現するために、基本的には毎回の授業の後にレポートを書かせ、それに対してフィードバックをかけるようにしている。

レポートを書かせ、フィードバックをかけることにより、学生は自分の考えを客観化することになる。また、他の人に自分のやったことを伝えるための訓練をすることになるし、教員からのフィードバックによって、何が足りていないのかに気づくことができる。

フィードバックをかけることが重要であるので、レポートの採点だけではなく、直接の対話も含む多様な方法で学生とはコミュニケーションをとり、自分の考え方を客観視することで、より幅広い視野を身に付けることができるようになる。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の学生によるアンケート結果は、プログラミング基礎演習については、平均値というよりはその分布に問題があったと思う。試験やレポートの点数を見ても二極分解しており、内容を深く理解している学生とほとんど理解していない学生に分かれてしまったと考える。これは、2つのフロアーの違う教室で実施していたことが大きな理由であると考えている。

コロナ禍ではあるが、より一体感を持たせられるための方策がとれば良かったと考えており、2023年度においてはこの点を改善したいと思っている。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

I. 短期目標

1) 2020年度に導入した「プロジェクト実践」は、第1期の学生が修了し、学外ともかかわりを持つ有意義な授業になってきていると確信している。一方でグループ内でのただ乗りや、配慮が必要な学生をどのようにプロジェクトに配置し、どのように評価するかは今後の課題である。

2) 知識を得るための授業についてはできる限りオンライン化、オンデマンド化したり、外部リソースを使用する方向にしていく必要がある。しかし、受講者間の一体感がかけてしまうと授業運営はうまくいかないので、一体感を損なわない授業を模索したい。

II.)長期目標

1) プロジェクト実践のプロジェクトを、より社会とつながりのあるものとするため、協力してもらえる組織や人との結びつきを模索する。

2) 学内で使用できる、オンライン、オンデマンドのコンテンツを増やし、学生が必要に応じてそれらのコンテンツにアクセスできるようにする。

3) プロジェクト実践に限らず、企業や他大学、地域とのつながりを持った授業を創り、運営していく。

4) 卒業生を含んだ社会人に向けた教育を展開していく。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【金曜・1限 28501001 [プログラミング基礎演習] 内海 太祐】

昨年度からプログラミング基礎演習でPythonを採用したが、到達目標が高すぎたので、目標をかなり下げて、テキストとしても最も易しい小中学生でも理解できる程度のPythonの教科書の一つを採用した。内容については解説するが、解説しなくても、十分独学できる内容である。例年、この授業については、遅れたレポートは一切受け取らないという方針で考えていたが、今年は遅れたレポートも受け取れるように、少し緩くした。

ただし、授業は442教室と452教室という、階の違う部屋での授業だったので、442から452へZoom配信し、配信した画面をSAに表示させて授業を実施するという、かなり条件としては厳しい授業だった。一方で、授業で話した内容を録画しておき、後で見られるようにもしてあった。

授業の結果を見ると、おそらく2種類の明確に違う集団が存在することが明らかになった。期末テストやレポートの結果を見ても全く分からない学生群10名程度と、通常を理解を示す学生群30名程度との2種類が存在している。全く分からないという学生10名については、おそらくどのような教材の提示の仕方でも通常の時間ではプログラミングの理解は難しいと思われる。

もしこの状況を改善しようと思ったら、可能かどうかはわからないが、補習なども含めてプラスアルファの時間が必要になる。また、レポートの遅れを認めたことはマイナスに働いたと思われる。やるべきことは、強制したほうが、結果は良くなるのかもしれないと感じた。

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜・1限 R2567501 [IoT] 内海 太祐】

比較的簡単なプログラムで機器制御をできるのは良いのだが、学生によって大きなばらつきがある。説明部分などをオンデマンド化し、学生のサポートに注力できるようにすることで、個別対応を増やしていきたい。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	28501001	プログラミング基礎演習
前期	総合ビジネス・情報	1	R2578501	プロジェクト実践I
前期	総合ビジネス・情報	2	22510602	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	28562501	Linux
前期	総合ビジネス・情報	2	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
前期	リベラルアーツ(全学科)	1	R4LA5001	湘北スタートアップセミナー
後期	総合ビジネス・情報	1	22510102	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	R2579001	プロジェクト実践Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511102	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	R2567501	IoT
後期	総合ビジネス・情報	2	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	28501001	プログラミング基礎演習
前期	総合ビジネス・情報	1	R2578501	プロジェクト実践I
前期	総合ビジネス・情報	2	22510602	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	28562501	Linux
前期	総合ビジネス・情報	2	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
後期	総合ビジネス・情報	1	R2579001	プロジェクト実践Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	R5568001	組み込みプログラミング演習
後期	総合ビジネス・情報	2	22511102	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	R2567501	IoT
後期	総合ビジネス・情報	2	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	教授
教員氏名	高野瀬 一晃

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス情報学科(以下「B学科」)の教員として、主に「国内外の先進的な企業とその経営者」に関する授業を担当している。2022年度の担当科目は「経営者の知恵に学ぶ」である。

この授業では、将来、企業への就職や起業を目指すB学科の学生が、どのような心構えで社会に巣立って行くかを後押しする事を主眼に、自ら事前レポートの作成を通して、その答えを見い出せるように指導している。

今まで聞いた事はあっても、その製品やサービスまでは知らなかった企業の内容を知り、また、その創業者の生い立ち、失敗談、成功に至るまでの試行錯誤や不屈の精神を色々な角度から学習してもらっている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、私自らのビジネス体験も踏まえ、優れた経営者達の知恵を、学生一人一人が、此れからの長い人生を生きていくヒントにしてもらうことであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1)本学の教育理念である「社会でほんとうに役立つ人材を育てる」を学生の立場からみると「自分が、社会でほんとうに役立つ人材になるために、湘北短大で何を学んだら良いだろうか？」という問いに対する答えを常に探し求めるということであろう。その答えを、学修を通じて自ら見出せるように指導することを重視している。

2)授業への参加感は、課された事前の調査レポートを作成する事、更にはそのレポートの内容が、他の受講者の前で披露され、評価される事で大いに高まる。また、自ら調べた事に対する感想や発見を他の受講者と共有する手段として、プレゼンテーション力やコミュニケーション力を身に付させることを重視している。

3)本学が目指す「自由闊達にして愉快なる自由学園」の実現には、とにかく教師も学生も「楽しく学ぶ」事が重要であり、常にその事を重視している。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え(2. 教育の理念)を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1)「経営者の知恵に学ぶ」では、調査力、検索能力、レポート作成力、プレゼンテーション力を育み、自らが進んで授業内容に取り組めるように指導している。授業では、事前レポート作成という予習方式を積極的に用いている。

2)「経営者の知恵に学ぶ」では、自ら事前の調査レポートを作成するのみならず、他社のレポート内容を聞くことで、多角的なモノの見方が出来るように工夫している。また、学生が、自分の考えを他の受講者とシェアする機会を大切にしている。

3)前年度の授業に比べて、受講者数が倍増したことから、本年度の授業では、試験に替わるプレゼンテーションを二回に分けて行うこととした。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の学生による授業評価アンケート結果も、いままで同様に高評価を得られた。今後も、最新のビジネス界の動きにもアンテナを高く掲げて、情報の鮮度管理と授業内容の改善に取り組み、学生が実際の生活の中で「経営者の知恵に学べた」と実感できる授業を模索し続けたい。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

授業の成否は、学生に課す事前の調査レポートへの努力に負う処が大であるが、生成系AI、特に使用が一般化し始めている「ChatGPT」をどのようなルールとガイドラインで学生達に使用させるかが大きなチャレンジである。益々進むAI技術を、積極的に取り入れて、学生達が急速に変貌を遂げる「社会でほんとうに役立つ」ようになる為の知恵も同時に磨く事を目標とする。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

(記載なし)

(記載なし)

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

特になし。

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

特になし。

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	総合ビジネス・情報	1	R2580501	経営リーダーの知恵に学ぶ

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	総合ビジネス・情報	1	R2580501	経営リーダーの知恵に学ぶ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	教授
教員氏名	飯塚 順一

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主にコミュニケーション論、社会心理学に関する授業を担当している。
2022年度の担当科目は、別記のとおりである。
私は、将来、幅広い業種・職種に就く多くの学生達が、どのような人的環境においても、周囲を上手く巻き込みながら乗り越えていくことができる対応力の育成に力を注いでいる。
「現代社会コミュニケーション論」では、コミュニケーションを軸に社会の諸問題を考察することで、思考力と知識の双方の習得を目指している。
「組織心理学」は、日常生活における対人心理を分析することで、難しい局面でも自分で解決できる力の習得を目標としている。
また、キャリア教育センター長として、就業力育成、インターンシップ、キャリアサポートの3要素の連携を効果的に機能させ、学生の総合的キャリア支援につながるよう、努めている。
最優先する私の教育の責任は、学生と向き合うことと確信している。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私が最も重視していることは、“学生に考えさせること”である。当然のことでありながら、多くの学生は「どうしたらいいか、教えてください」という姿勢になりがちで、具体的な指示を与えられれば、従順に言われたとおりにするため、指示待ち人間になってしまう。
こうしたことを避けるため、私が実行しているのは、“学生に考えさせ、判断させ、実行させること”である。通常の授業は当然ながら、インターンシップから健康管理面での連絡に至るまで、事前に学習した内容に関する学生からの確認に対しては「最初に〇〇をやり、次は〇〇で、最後に〇〇をやりなさい」という指示型ではなく、「まず、自分で考え、判断し、“〇〇と〇〇で行いますので、何かあれば、ご指示ください”という確認の連絡をしなさい」という指導を行っている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、本学の教育の理念に基づき、次のような工夫を行っている。

- 1)「現代社会コミュニケーション論」では、現代社会の諸問題を分析し、その根底にある社会構造や労働環境、また人間の意識等、複合的に考える力を醸成することを目的に、グループワークによるディスカッションを重視している。
- 2)「組織心理学」では、日常では見落としがちな概念や一人で思い悩みがちなことに目を向け、認識を改め、学生がより前向きな気持ちで生きていけることにつながるよう、意識して指導を行っている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の授業評価アンケートでは、例年同様、新しさや教員の熱意に関する項目で高いスコアを得ていることから、今後も当初の設定テーマ以外にも時事問題や世界平和に関する問題等を多く取り入れ、教員自身の経験も交えて取り組みたいと考えている。

学生支援については、インターンシップに関する取り組みや就職支援での評価が成果として挙げられる。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

私の教育に関する短期目標と長期目標は、次のとおりである。

I. 短期目標

インターンシップ科目において、前年度に新規にスタートした「インターンシップ検定」の拡大、2年生が1年生を指導するPBL型のさらなる充実を図る。

II. 長期目標

就業力育成科目とインターンシップ科目、さらには学科専門科目との連携をさらに強化し、繰り返しの指導が必要な要素については、あえて重複させて知識やスキルの定着を図る。

■後期取組

火曜日・2限 22510104 [ゼミナール I] 飯塚 順一

日常生活の中におけるコミュニケーションの機能を再認識し、学生は自分の言動に有効活用する

■後期改善

水曜日・3限 23546502 [組織心理学] 飯塚順一

“心理学は面白い。もっと勉強したくなった”というコメントが複数挙げられ、「組織心理学」の発展型科目の開講を検討している。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・2限 22510603 [ゼミナールⅡ] 飯塚 順一】

コミュニケーションを軸にしたキャリア意識の醸成

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・4限 26545503 [現代社会コミュニケーション論] 飯塚 順一】

就職活動中の2年生により関心を持たせるテーマ設定

■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・2限 22510104 [ゼミナールⅠ] 飯塚 順一】

高校時代にコロナ感染対策の影響を受けてきた学年であるので、授業中、対面でのコミュニケーションを重視し、学生各々の状況と心理状態の把握に努めてきた。その結果、アンケートQ13.「コミュニケーションを密接にとり、親身になって相談に乗ってくれる」のスコアが3.91となり、今後も同様の指導を継続していく。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・3限 23546502 [組織心理学] 飯塚 順一】

履修者数が134名と多かったこともあり、授業中に答えさせる場面では、取組み姿勢の弱い学生を中心に指名してきたが、しっかり取り組んでいる学生からは、自分が答えたかったというアンケートでの回答もあり、今後の改善点をして受け止めている。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	26539503	オフィスワークの基礎
前期	総合ビジネス・情報	2	22510603	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	26545502	現代社会コミュニケーション論
前期	総合ビジネス・情報	2	26545503	現代社会コミュニケーション論
前期	就業力育成(総合)	1	26BU0101	キャリアリテラシー(社会人基礎)
前期	就業力育成(総合)	1	26BU0102	キャリアリテラシー(社会人基礎)
前期	就業力育成(総合)	1	26BU0103	キャリアリテラシー(社会人基礎)
前期	就業力育成(総合)	1	26BU0104	キャリアリテラシー(社会人基礎)
後期	総合ビジネス・情報	1	22510104	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	22540501	オフィスワーク演習Ⅰ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511103	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	23546502	組織心理学
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0201	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0401	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0501	インターンシップリテラシー
後期	インターンシップ(総合・生活)	2	30IS0601	インターンシップティーチング

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2	22510603	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	26545502	現代社会コミュニケーション論
前期	総合ビジネス・情報	2	26545503	現代社会コミュニケーション論
前期	インターンシップ(総合・生活)	1	R5IS0101	夏季インターンシップ(長期)
前期	インターンシップ(総合・生活)	1	R5IS0201	夏季インターンシップ(短期)
前期	就業力育成(総合)	1	R5BU0101	私のキャリアデザイン
前期	就業力育成(総合)	1	R5BU0102	私のキャリアデザイン
前期	就業力育成(総合)	1	R5BU0103	私のキャリアデザイン
前期	就業力育成(総合)	1	R5BU0104	私のキャリアデザイン
後期	総合ビジネス・情報	1	22510103	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511103	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	23546502	組織心理学
後期	総合ビジネス・情報	2	23546503	組織心理学
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0201	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0401	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0501	インターンシップリテラシー
後期	インターンシップ(総合)	2	26IS0509	インターンシップリテラシー(留)
後期	インターンシップ(総合・生活)	2	30IS0601	インターンシップティーチング

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	教授
教員氏名	加藤 美樹雄

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主に簿記、FPに関する授業を担当している。2022年度の担当科目は、※別紙のとおりである。

簿記は、将来事務職を目指す総合ビジネス・情報学科の学生が、会社の会計処理をするために重要であることから、様々な会計処理ができるよう指導している。

「初級簿記Ⅰ、Ⅱ」では、簿記の基礎理論を学習することで、複式簿記の原理にしたがって会計処理する力を修得することを目指している。

「中級簿記、上級簿記」では、株式会社の日常の会計処理から、財務諸表を作成することができることを目標としている。

また、課外活動では、バレーボールサークルの顧問として、日々学生の主体的活動を推進している。課外活動の指導においては、学生の健康管理に気をつけるよう努めている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が社会で活躍できる力を身につけることであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1) 自主的に学ぶことができるように、粘り強く指導すること。

学生たちが、自主的に目標を設定することによって、自ら取り組む姿勢を築くことが重要であることから、学生が達成可能な目標を示し、これをクリアしたらまた次のステップに臨めるよう指導している。

2) 専門知識の修得と共に、コミュニケーション能力を身に付けること。

コミュニケーション能力の育成は、社会人として重要であることから、簿記やFPの学習を通して、他人に説明できる力が付くような内容を授業に盛り込んでいる。

3) 課外活動を通じて、人と共生する力、相手を思いやる力を身に付けること。

課外活動は、社会人として必要な、チームワークや協調性を身につけるように常に意識して指導している。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、「社会で本当に役に立つ人材を育成する」を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1)「初級簿記」では、企業で役に立つ計算力を育み、その数値の根拠が説明できるよう、資産・負債・純資産・収益・費用といった項目の中身を理解できるよう指導している。
授業では、計算問題演習による方法を積極的に用いている。

2)「中級簿記」では、計算する力を育むのみならず、様々な企業の財務諸表を分析することで、企業活動への理解が深まるよう工夫している。学生が、大企業の財務諸表を作成することができるよう、演習問題に触れる機会を大切にしている。

3)前年度の授業では、簿記の計算問題を紙ベースで解くことが主であったことから、本年度の授業ではパソコンを使って計算問題を解くこととした。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の学生による授業評価アンケート結果は、自宅での学習時間について、1時間以上との回答が多かった。
これは、eラーニングを使って、学生が何回も復習することが出来るようにしたことが、自宅での学習時間の増加につながったと考える。
また、検定試験については、受験者が減少したことから、簿記検定の取得を明確な目標に掲げて授業を進めたいと考える。

学生支援については、検定の特別講座などでフォローしたことが成果としてあげられる。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

教育改善への取組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。また、学生の授業評価から、改善点を見出し、次年度の授業に活かすようにしている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

- 1)簿記については、検定試験の合格率を向上させる
- 2)eラーニングを積極的に授業に取り入れる
- 3)授業での課題配布、回収のオンライン化の推進

II. 長期目標

- 1)いつでも、学び直しができるような授業環境の整備
- 2)オンライン、対面も同様な効果が出せるようにする
- 3)自身の関連分野で、オンデマンド授業のコンテンツを作る

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・1限 22508002 [初級簿記Ⅰ] 加藤 美樹雄】

自宅での学習時間をもっと増やすように工夫する 必修科目なので、科目の内容に馴染めない学生に、前向きに取り組めるような内容のものを作成していく。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜・4限 22524501 [中級簿記] 加藤 美樹雄】

授業録画し、授業を休んだ学生や、ゆっくりと復習したい学生向けにeラーニングで毎授業公開した。

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【金曜・1限 22508502 [初級簿記Ⅱ] 加藤 美樹雄】

授業外での学習時間が、30分またはゼロという学生が多くいた。教科書や問題集などのページ数を示し、各自予習、復習することという指示を行っていた。しかし、このような指示は、明確さに欠けていたと判断し、今後は、具体的に課題内容を指示して、自宅等で取り組む内容を明確にする。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・4限 R3576501 [PC経理実務] 加藤 美樹雄】

より実務を意識して、実践的な経理内容を実習形式で行った。その点が、近く社会人となる学生に、学習内容に興味を持たせ、モチベーションを維持し続けた。また、PCを利用した会計処理は、今後のDX推進にも役立つ内容となった。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22508001	初級簿記Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	22508002	初級簿記Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	25523001	商業簿記Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	R3527101	FP基礎論
前期	総合ビジネス・情報	2	22510607	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	22524501	中級簿記
後期	総合ビジネス・情報	1	22508501	初級簿記Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	22508502	初級簿記Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	22510109	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	25523201	商業簿記Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511107	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	24524701	上級簿記
後期	総合ビジネス・情報	2	R3576501	PC経理実務
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0203	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0403	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0503	インターンシップリテラシー

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22508001	初級簿記Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	22508002	初級簿記Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	25523001	商業簿記Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	R3527101	FP基礎論
前期	総合ビジネス・情報	2	22510606	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	22524501	中級簿記
後期	総合ビジネス・情報	1	22508501	初級簿記Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	22508502	初級簿記Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	22510108	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	25523201	商業簿記Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511106	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	24524701	上級簿記
後期	総合ビジネス・情報	2	R3576501	PC経理実務
後期	リベラルアーツ(生活)	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	教授
教員氏名	山形 俊之

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は総合ビジネス・情報学科の教員として主に英語科目と観光関連科目を担当している。国際理解科目科目では、TOEIC Listening and Readingテストの対策授業を担当し、各学生のスコアアップの実現を目標にしている。保育学科の「英語」では、将来就職する幼稚園や保育園で外国人の生徒や保護者に対応できる表現を多く身につけることを目標としている。観光関連科目では国家資格「国内旅行業務取扱管理者」試験対策の授業を担当し、鉄道、観光バス、宿泊施設などの約款や料金・運賃計算について効率よく学び、試験に合格できるようにすることを目標にしている。

課外活動では入職以来、国際交流委員会顧問として学生指導を行っている。学生にはPDCAサイクルに基づく企画運営を身につけさせるほか、社会人としてのマナーや考え方を実践的に学ぶことができるよう努めている。活動全体を通じて人間力を高めるトレーニングになるような場を提供することを心がけている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私が本学での教育活動において重視していることは、以下の4点である

- (1)国際理解教育の諸活動を通じて、学生がコミュニケーション力、企画実践力、多様性に対する理解力といった人間力を向上できるようにすること
- (2)学生が、英語学習や国際交流活動を通じて、外国事情に関心を持ち、異文化に対する理解を深めること
- (3)学生が英語を「ツール」として利用できるようになること
- (4)学生が、自ら学びを楽しみ、学ぶための行動ができるようになること

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は教育の理念を実現するために、以下の方法を実践している。

①授業においては、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、実践的なトレーニングの場を多く用意している。これにより英語をツールとして使用する状況を体験学習させることが可能となる。特に音読（スピーキング）に重点を置き、「英語を英語のまま理解する力」の向上を実践する。これによりリスニング力やリーディング力も並行して向上させることができる。また、反転授業の実践やアプリを活用した教材を使用することにより、「楽しみながら学ぶ」環境づくりを心掛けている。

②TOEIC L&Rテスト対策授業では、学生個人のスコアカウンセリングシートを作成し、個別指導を中心とした授業を展開している。またグループワークを行うことで学生自身が自らの弱点を明らかにし、その強化を自らの課題として認識することができるように指導している。また、反復学習により学生が弱点を克服できるように指導している。

③国際交流で学生が実施する活動は、すべてPDCAサイクルを意識させ、社会人と同じように企画実施ができるように指導している。企画そのものも学生にとって非常に責任が重く、時間も労力もかかるものばかりである。それを自ら率先して実施できるようになるには、非常に密な指導が必要となる。この指導はOJTに近いものである。リーダーが選出された時点でリーダー教育を実施し、毎週の定例会を含む一つの企画に企画書や報告書を作成することを徹底し、実施させる。同時に、2年生全体にも指導的立場を意識させることで、リーダー・2年生・1年生という指導ラインを確立させる。そのあとは個々の企画の準備段階から学生とともに行動し、その都度指導をすることで、学生に気づきを与え、企画をより良いものにするための行動を促すようにしている。前期中にFace to Faceのトレーニングをすることで、後期には学生自身が自ら考え、行動できる環境を作っている。

④授業や課外活動といった国際理解教育活動を通じて、学生は留学生とのコミュニケーションや留学中の現地でのコミュニケーションの中で英語をツールとして使用する。そのような実践的な状況の中で学んだ表現は、授業で学んだものよりも定着する。そのため、学生がコミュニケーションをとっているところに赴き、(感覚的には)「そっと教える」ようなサポートするようにしている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

TOEIC L&Rテスト対策を講じた「ゼミナール」では、31名中11名が400～495点、5名が500～595点、4名が600点以上を取得した。そして1年半の学習の結果、平均180点のスコア向上がみられた。コロナ禍によりグループワークが実施できなかったため今一つの結果となってしまったが、個人指導と反復学習によってこのスコア向上がみられたのは一つの成果として考えられる。授業評価アンケートから、70%以上の学生が30分以上の復習を行っていること、そして90%以上の学生が積極的に授業に取り組んだと回答していることから明らかであろう。

保育学科の「英語」授業内で3回ほどプレイスメントテストとして活用しているTOEIC Bridge L&Rテストの対策を行った(1回につき15分程度。)その結果、ひとクラスは31名中21名にスコア向上がみられ、もうひとクラスも32名中17名にスコア向上がみられた。特にリーディングの話を中心にしたクラスのほうがスコア向上が大きかったことから、授業内の丁寧な本文訳読や語彙・文法学習に加え、テスト対策としてスキミングなどを経験させたことが語学力向上につながったものと思われる。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

教育改善に向けて、以下のことを実践している

- ① 学内で開催されているFD活動には欠かさず参加し、授業公開の際には先生方の授業法のいいところを積極的に自分の授業に取り入れている。
- ② ICT機器を活用した教育手法に関するセミナーに参加し、自らの授業に取り入れる。
- ③ TOEIC L&Rテスト指導者向けの講座には必ず出席することで、TOEICスコアアップ講師としての知見を深めるように努力している。また、多くの指導者との情報交換を経て得た知見は自らの授業にも取り入れている。オンライン授業でのスイッチャーの導入や、スコアカウンセリングシートはそれによるものである。また、IIBCのセミナーにも積極的に参加し、他大学の事例研究も行っている。
- ④ 「国内旅行業務取扱管理者」資格対策授業に関しても、JTB総合研究所主催のセミナーや勉強会に参加し、知見を深めるほか、他大学で教鞭をとる教員との情報交換を行い、より効果的な授業が展開できるように自己研鑽に努めている。

また今後の目標については以下のとおりである。

短期的な目標としては、

- ① TOEIC L&Rテスト資格対策授業において、授業の目標点数取得者を100%にすること（「TOEIC（初級）」「ゼミナールⅠ」：400点、「TOEIC（中級）」「ゼミナールⅡ」：500点、「ゼミナールⅢ」：550点）
- ② 「国内旅行業務取扱管理者」合格者を受験者の50%にすること。この実現に向けて、非常勤講師との連携により授業内容の精査を常に行っていく。
- ③ 年度作成したTOEIC L&Rテスト対策の動画教材「湘北TOEICチャンネル」を活用し、反復授業を授業に取り入れることである。LMSに載せることで本学学生なら自由にアクセスできるようなシステムにしたい。また、目標スコア別に問題を配置することにより、個々の学生の目標達成に資するものにできればと考えている。

中期的な目標としては、スコアアップカウンセリングシートの自動化を進めたい。これによりカウンセリングにかかる時間をより多くとることができると考えられるためである。

国際交流活動に関しては、各プログラムの内容を精査し、本学学生の国際理解力向上に資するプログラムを多く実現したい。また、Newcastle大学以外の海外の大学生と活動を通じてコミュニケーションができる場を用意し、学生の異文化理解に資するプログラムを実施したい。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

(記載なし)

(記載なし)

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	R2581001	国内旅行実務
前期	総合ビジネス・情報	2	22510605	ゼミナールⅡ
前期	国際理解(総合)	1	31GC3001	イングリッシュ・グラマー
前期	国際理解(総合)	2	30GC5001	TOEIC(初級)B
前期	国際理解(総合・生活)	2	30GC5101	TOEIC(中級)
後期	総合ビジネス・情報	1	22510105	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511105	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	31552001	CALL演習
後期	国際理解(総合・生活)	2	31GC5201	TOEIC(ブラッシュアップ)
通年	国際理解(保育)	1	26GC1001	英語
通年	国際理解(保育)	1	26GC1002	英語
前期(集中)	国際理解(全学科)	1・2	26GC6001	海外英語研修

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	22555501	観光地理
前期	総合ビジネス・情報	1	31577501	旅行業約款
前期	総合ビジネス・情報	1	31578001	旅行業法
前期	総合ビジネス・情報	1	R2581001	国内旅行実務
前期	総合ビジネス・情報	2	22510604	ゼミナールⅡ
前期	国際理解(総合)	1	31GC3001	イングリッシュ・グラマー
前期	国際理解(総合・生活)	2	30GC5101	TOEIC(中級)
後期	総合ビジネス・情報	1	22510104	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511104	ゼミナールⅢ
通年	国際理解(保育)	1	26GC1001	英語
通年	国際理解(保育)	1	26GC1002	英語
前期(集中)	国際理解(全学科)	1・2	26GC6001	海外英語研修

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	准教授
教員氏名	石崎 琢也

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主にビジネスや経営学に関わる授業を担当している。2022年度の担当科目は、別記のとおりである。これらの科目を通じて、私は総合ビジネス・情報学科の学生がビジネスパーソンとして現場で役に立つ知識を修得できるよう指導している。

「ビジネス社会の基礎Ⅰ」では、会社のしくみや形態、制度といったビジネス上のルールやしくみや構造に関する知識の修得を目指している。

「ビジネス社会の基礎Ⅱ」では、ビジネス上のルールやしくみのもとで個々の会社がどのように行動しているのか、会社の行動を規定する戦略に関する知識習得を目指している。

「現代ビジネス事情」では、企業の経営戦略に焦点を当て、現代のビジネス事情を深く理解することを目標にしている。

「インターンシップリテラシー」では、インターンシップ(現場実習)で必要となる知識と行動力の修得を目指している。

「ゼミナールⅠ」では、企業によるイノベーションやマネジメントに関する知識修得を目指している。

「ゼミナールⅡ」では、これまで学んだビジネス知識の定着と強化を目的にビジネスアイデアコンテストへの参加を目指している。

「ゼミナールⅢ」では、ビジネスをテーマとした論文執筆を通じて考察力、表現力、論理力の強化を目指している。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

(1)体系的知識の獲得
ビジネスに関連するあらゆる知識は、ビジネスパーソンとして活動していくうえでの土台となる。その土台がより強固で広がりを持つためには、知識が体系的に整理されなおかつ定着していることが大切である。

(2)主体性
知識は発揮されて初めて意味を持つ。そのためには自らの意思や判断に基づいた意欲的な行動が不可欠である。

(3)論理力
論理的思考力をベースとして、論理的に読み、書き、話すことは、自らの行動に一貫性を生み出すとともに、周囲の納得しや行動をも生み出す。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え(教育の理念)を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

(1)体系的知識の獲得

「ビジネス社会の基礎Ⅰ」「ビジネス社会の基礎Ⅱ」「現代ビジネス事情」といった一連の科目では、常にそれぞれの科目間のつながりや位置づけを提示し、相互補完関係にあるよう内容を調整している。

(2)主体性

学生が自らの意思や判断に基づいて行動できるようになることが目標である。そのためまずは全ての担当科目で、主体性の第一歩となる「自発的な発言」を奨励している。

(3)論理力

「ビジネス社会の基礎Ⅰ」「ビジネス社会の基礎Ⅱ」「ゼミナールⅢ」といった科目では、意識的に長文のレポート執筆、卒業論文執筆、プレゼンテーションを課し、論理的思考力の獲得を目指している。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の学生による授業評価アンケート結果は、「Q6教員の提示した授業資料・ビデオ・パワーポイント」について、比較可能な13科目/クラスのうち9科目/クラスで2021年度の結果を上回る好結果であった。また「Q8教え方は分かりやすいですか」では同じく8科目/クラスで2021年度の結果を上回る結果であった。これらの結果は、コメントの「ビジネス社会の授業では先生のわかりやすい資料やエクササイズなどの項目で手を上げる機会を作ってくれていて授業に積極的に取り組むことが出来ました」や「わかりやすく教えてくださり、何かしらの発言をするとフォローしてくれたり褒めてくれたりと発言することが怖くなくなり、授業にも真剣に取り組めました」というものからも示されるように「分かりやすさ」と「やる気を引き出すこと」に気を配った結果であると考えられる。一方、授業の予習・復習に関しては低調であった。今後はより明確な予習・復習課題の提示を通じて、向上させたい。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

授業全般について、学生のニーズを満たすとともに、学力向上につながるように授業内容、配布資料、ティーチングスタイルなどを適宜アップデートしていきたい。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・2限 22510606 [ゼミナールⅡ] 石崎 琢也】

オンデマンド授業では、説明の速度よりも説明の質を高めることが大切。

■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・4限 23507503 [ビジネス社会の基礎Ⅱ] 石崎 琢也】

学生の発言機会を増やすために設問を工夫し、ワークの設定や雰囲気作りに尽力した。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
	授業担当科目一覧	
	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	23507001	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	23507002	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	23507003	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	23507004	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	2	22510606	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	1	22510107	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507501	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507502	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507503	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507504	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511106	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	22515001	現代ビジネス事情
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0202	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0402	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0502	インターンシップリテラシー

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	23507001	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	23507002	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	23507003	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	23507004	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	2	22510605	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	23507005	ビジネス社会の基礎Ⅰ(留)
後期	総合ビジネス・情報	1	22510106	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507501	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507502	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507503	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507504	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511105	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	22515001	現代ビジネス事情
後期	総合ビジネス・情報	2	23507505	ビジネス社会の基礎Ⅱ(留)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0202	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0402	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0502	インターンシップリテラシー
後期	リベラルアーツ(生活)	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
後期	就業力育成(総合・生活)	2	26BU0401	キャリアブラッシュアップ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	准教授
教員氏名	高木 亜有子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学 総合ビジネス・情報学科 の教員として、主にWeb、CG、ゲームに関する授業を担当している。2021年度の担当科目は別記のとおりである。

「Javaプログラミング演習」では、統合開発環境ソフトのEclipseを用いて、Javaのプログラミング技術を習得することを目指している。

「WEB基礎」では、HTMLとCSSを学び、簡単なWebページを作成できるようになることを目標としている。「CG基礎」ではAdobe Photoshop、Adobe Illustratorというソフトウェアを用いて写真加工や画像素材を作成し、Webページ作成に活用できるようになることを目標としている。この授業は全てオンデマンド形式で実施している。

「ゲームデザイン」では、ゲームの仕組みを学び、グループでゲームを作成し、発表する体験を通じて、共同制作のノウハウやコミュニケーション、タスク管理、プレゼンテーション能力を身に付けることを目標としている。

「CG理論」ではコンピュータグラフィックスの理論を学び、適切に画像加工や画像処理を行い、コンピュータグラフィックスを活用するための知識の修得を目指している。一部オンデマンド形式で実施している。

「プロジェクト実践II」「プロジェクト実践III」ではプロジェクトの企画・計画・推進を行い、グループワークを通じて、他者と協働するための力、問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、スケジュール管理能力を身に付けることを目標としている。

「インターンシップリテラシー」では、インターンシップ時に必要なビジネスマナーや心構えを身に付けることを目標としている。

「プレゼминаール」では、履修指導やサークル・委員会活動の紹介、メンタルヘルス、卒業生からの話、ゼミ紹介など、様々な内容を実施し、1年生が充実した学生生活を送れるようになることを目標としている。

「ゼミナールI・II・III」では、テーマを「ゲーム制作」とし、学生が協働してゲームを作成し、その成果を東京ゲームショウ等の外部のイベントで発表することで、グループワーク、協働作業に必要なコミュニケーション能力、他者へのゲーム説明を通じたプレゼンテーション能力、お客様対応能力を身に付けることを目標としている。

また、課外活動では、湘北祭出店管理部門の顧問として、湘北祭が円滑に実施できるようにサポートしている。また、ゲームサークル、イラストサークルの顧問をしている。課外活動の指導においては、学生が自ら発案し行動できるように見守り、助けが必要な場合に適切なアドバイスをするよう努めている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が自立した社会人となり、社会で活躍できるようにすることであると考える。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

- 1) 自分の力で考え、決断し、行動できるように、様々な体験の機会を用意すること
プロジェクト型の学習を通じて、教員から答えを教えてもらう学びではなく、自ら答えや問題解決方法を見つけることができる力を身に付けて欲しい。
- 2) PCを活用し、社会でITを活用できる能力を身に付けること。
用意されたソフトウェアを使うだけでなく、プログラミングやWebページ制作等、新たなサービスを社会に提供できる人材となって欲しい。
- 3) 学内だけでなく、学外の人との交流ができるようなイベントに参加すること
仕事では、社内の人、お客様等、様々な立場の人とのコミュニケーションが必要となるため、学内の人だけでなく、学外の人との交流ができるようなイベント(東京ゲームショウ、ゲームマーケット、Global Game Jam等)に参加して、コミュニケーション能力を伸ばして欲しい。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え(教育の理念)を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている

- 1)「Javaプログラミング演習」では、教員の用意したプログラムを模写することで、Javaの基本文法、Eclipseの使い方を学び、徐々に課題の難易度を挙げて、自らアルゴリズムを考えて設計するように指導している。
- 2)「WEB基礎」では、始めのうちは提示された手順での作業を通じてWebページの作成方法を学び、最終課題ではグループで与えられたテーマ内で自由にWebサイトを作成するように指導している。
- 3)「CG基礎」は、オンデマンドの科目として、ソフトウェアの操作方法や課題の制作方法を動画で準備し、学生がいつでも操作を確認してソフトウェアの操作方法を身に付け、様々な図や画像が作成できるように指導している。
- 4)「ゲームデザイン」では、ゲームの体験を通じて、学生がどのように思考しているのかを自ら振り返り発表をさせ、最終課題では自らの考えたオリジナルのゲーム制作し、テストプレイを通じて問題点を挙げてブラッシュアップを重ね、より良い作品を作るように導いている。また、作るだけではなく、他の人の作品を体験し、意見をすることで、コミュニケーション能力や、観察能力を伸ばし、発表を通じてプレゼンテーション能力を伸ばすように機会を設定している。
- 5)「CG理論」ではCGの理論を学びを深めるために、一眼レフカメラでの撮影や、CGソフトウェアによる画像加工の方法など、適宜実技を交えながら知識の修得を目指している。CGソフトウェアの操作方法是オンデマンド教材として、いつでも確認ができるように準備している。あらかじめ動画教材で予習をする「反転授業」を一部取り入れ、前もって質問を受け付け、授業内で回答するようにしている。
- 6)「プロジェクト実践II」「プロジェクト実践III」では学生が選んだプロジェクトを自ら成功させるために、毎週の進捗状況の確認と、適切なアドバイスを与えている。最後の発表会を通じて、自分のプロジェクトだけでなく、他の人のプロジェクトを見たり聞いたり意見をしたりなど、クラス全体の学びの機会としている。
- 7)「ゼミナールI・II・III」では、自分たちで作成したゲームを必ず外部に向けて発表するようにしている。東京ゲームショウや湘北祭、ゲームマーケットや各種コンテストで発表し、学外のお客様の反応を見ることで、自ら作成した作品に対する振り返りは評価を肌で感じることができる。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業評価アンケートの結果は、正直あまり芳しくない。
他の科目と比較すると、私が担当する科目はWeb制作やゲーム制作等、時間外の作業が多くなることで、学生への負担が大きくなり、結果として授業の評価としては低いものになっていると考えられる。かといって、授業時間外の作業無くして作品は作れないため、評価を上げるために作業量を減らすということは、技術が身に付かず、最終的には学生のためにならないと考える。
毎年、学生作品をWebサイトで公開していることで、入学前から高木ゼミに入りたいという学生もいることから、一定の成果として挙げられるのではないかと(広報、学生募集、学生の学習に対する達成感)。
オンデマンド教材とCGソフトウェアを扱う授業との親和性は高く、アンケートの自由記述欄を見ると、「授業内容をいつでも見直しできる」、「自分のペースで作業を進めることができる」など、好意的な意見が多かった。
学生が自らのPCで作業を行う授業では、割り当てられた教室によって学習効果の差が大きいと感じる。例えば、144教室等のPC教室であれば、教員の作業画面が学生のすぐ横のモニタで確認できるが、411教室等の一般教室では、教員の作業画面を教室前方のスクリーンで確認することとなり、学生の作業画面との視線移動の距離が大きく、必然的に作業時間が遅くなるが多かった。事前にわかりやすい資料を準備するなどの工夫が必要だと考えられる。
学生との交流のため、discordサーバーを運用している。授業やゼミだけでなく、サークル活動等でも使用しており、学生が気軽に質問したり、学生同士の交流のために活用している。実際に作業会などを設け、画面共有機能などを使い、各ソフトウェアの操作方法を学習している。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

教育改善の取り組みとして、外部のセミナーや、他大学の教員の授業についての講演などに参加している。オンラインで手軽に参加できるセミナーが増え、ITのツールの活用方法などを学び、オンライン授業のみならず、対面授業においてもグループワークの活性化につながった。
今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次の通りである。

I. 短期目標

- 1) 学生の自己評価を高めるための工夫(学習成果の可視化、フィードバック、ほめるなど)
- 2) オンデマンド教材の開発(IDの活用、よりわかりやすい資料作成など)
- 3) オンラインツールを活用したグループワークの促進

II. 長期目標

- 1) チャレンジ精神を忘れずに、様々なことに積極的にチャレンジできる学生の育成
- 2) グループワークにおけるフリーライド問題への解決、各々の作業の可視化
- 3) 一人ひとりの能力やニーズに合わせた学習方法、課題設定、質問への回答、アドバイス方法など

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

(記載なし)

■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・2限 28574501 [CG理論] 高木 亜有子】

反転授業を取り入れ、あらかじめ予習用の動画を授業前までに視聴してもらい、前もってわからない点などの質問を受け付け、授業内で解説をするようにした。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・2限 22511108 [ゼミナールⅢ] 高木 亜有子】

就職相談

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

湘北Eラーニング

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	R2578501	プロジェクト実践I
前期	総合ビジネス・情報	1	R3503001	WEB基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	R3503501	CG基礎
前期	総合ビジネス・情報	2	22510608	ゼミナールII
前期	総合ビジネス・情報	2	28561501	Javaプログラミング演習
前期	総合ビジネス・情報	2	28564001	ゲームデザイン
前期	総合ビジネス・情報	2	R2579501	プロジェクト実践III
前期	生活プロデュース	2	R2206501	ファッションデザイン演習
後期	総合ビジネス・情報	1	22510106	ゼミナールI
後期	総合ビジネス・情報	1	28574501	CG理論
後期	総合ビジネス・情報	1	R2579001	プロジェクト実践II
後期	総合ビジネス・情報	2	22511108	ゼミナールIII
後期	総合ビジネス・情報	2	R2580001	プロジェクト実践IV
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0204	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0404	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0504	インターンシップリテラシー

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	R2578501	プロジェクト実践I
前期	総合ビジネス・情報	1	R3503001	WEB基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	R3503501	CG基礎
前期	総合ビジネス・情報	2	22510607	ゼミナールII
前期	総合ビジネス・情報	2	28561501	Javaプログラミング演習
前期	総合ビジネス・情報	2	28564001	ゲームデザイン
前期	総合ビジネス・情報	2	R2579501	プロジェクト実践III
前期	生活プロデュース	2	R2206501	ファッションデザイン演習
後期	総合ビジネス・情報	1	22510105	ゼミナールI
後期	総合ビジネス・情報	1	28574501	CG理論
後期	総合ビジネス・情報	1	R2579001	プロジェクト実践II
後期	総合ビジネス・情報	2	22511107	ゼミナールIII
後期	総合ビジネス・情報	2	R2580001	プロジェクト実践IV
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0203	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0403	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0503	インターンシップリテラシー
後期	リベラルアーツ(生活)	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	准教授
教員氏名	高嶋 章雄

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主にプログラミングとメディアデザインに関する授業を担当している。
2022年度の担当科目は、別記のとおりである。

主にプログラミングを学ぶ「C言語プログラミング」「Javaプログラミング」「WEBプログラミング」では、学生が、模写ではなくオリジナルのプログラムを作成することで、課題を解決するための論理的な考え方や、PC上で解を具現化する情報系スキルを獲得することを目指している。

「社会人のためのAI活用入門」では、近年急速に発展しているAIやデータサイエンスの技術に関し、一部演習を取り入れながらその利活用に関する基本的な知識を身につけることを目標としている。

「情報科学の基礎」では、学生が、情報技術の意義を理解し、コンピュータやネットワークの基本的な知識を整理し、実社会で情報技術がどのように活用されているかを把握することを目標としている。

「ビジュアルコミュニケーション」では、学生が、情報の伝達手段としての視覚的な表現について、基礎的な理論を学び、表現の効果的な利用方法を身につけること、およびプレゼンテーション資料作成や報告書作成など、オフィスワークにおける情報伝達において視覚情報を取り入れる有用性を理解することを目標としている。

「プロジェクト実践I・II・III・IV」では、学生が、個人プロジェクト、グループプロジェクトを通じ、目的・目標設定、計画、情報分析、課題解決、制作・表現などのプロセスを実践的に学ぶことで、プロジェクト遂行のための基本的な知識と進め方を身につけることを目標としている。

「ゼミナールI・II・III」では、学生が、地域の店舗や事業所を紹介する活動を通じ、他者とのコミュニケーションをとりながらプロジェクト遂行のための基本的な知識と進め方を身につけることを目標としている。

また、課外活動では、湘北祭実行委員広報部門の顧問として、チラシやパンフレット制作をサポートしている。課外活動の指導においては、学生の主体性を尊重し、必要以上の誘導や指示を行わないよう留意している。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、高度な情報化社会において情報技術を活用し自らの手で物事を作り上げる学生を育成することであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。
1) 情報化社会を担う人材に必要な基本的知識・技術の伝達
2) 実社会を意識した理論と実践の提供
3) 自ら考え、学び取り、自ら行動する力の醸成

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え(教育の理念)を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

今後の情報化社会を担う人材育成において、まずは既存の情報技術を臆せず試用することが起点になり得ると考え、「情報科学の基礎」や「プロジェクト実践I・II・III・IV」「ゼミナールI・II・III」においてIT活用方法を取り入れた授業を展開した。特にコミュニケーションツールとしてslackやgatherなど大学標準ではないサービスを利用した。またプロジェクト管理においてはbravio!、Jooto、Jiraなど複数のサービスの違いを比較しつつ使用した。加えて、今後のDX化でも普及が予想されるノーコード／ローコードのソフト開発や、AIサービスを用いた画像診断を体験させるなど、単語を知識として知っているレベルから手を動かして内容を把握するレベルへの引き上げを意識的に行っている。また、実社会における働き方の多様化を念頭に「ゼミナールIII」において一部の回をハイフレックス型で実施し、学生に主体的に参加形態を選択させた。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

「ゼミナールIII」において、コロナ感染拡大と実社会における働き方の多様化を念頭に、後半の複数回をハイフレックス型で実施した。Q7（オンライン授業におけるシステム活用）の結果が比較的高く(3.86)、自由記述においても「ハイフレックス制度を用いており、授業スタイルが選べて非常に良かった」「タイムラグなくスムーズに授業が進められたと思う。またチャット機能やグループ分けも活用できてグループ内での進行も円滑に進んでよかった。」という意見が得られ、好評であったように思う。教職員が思う以上にデジタルネイティブ世代の対応が柔軟であることを改めて感じ、大学側にも柔軟な対応が求められることを再認識した。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

1) オンデマンド科目においてインストラクショナルデザインを実践する(情報科学・ビジネスに役立つ教養とDX)

2) AIサービスを試用させて学びを深める機会を授業に取り入れる(情報科学・社会人のためのAI活用入門・プロジェクト実践・ゼミナール)

II. 長期目標

1) ICTを活用した新しい教育スタイル・手法について、継続的に調査・検討する

2) ICT技術に関する基礎と応用のバランスを保ちつつ、学生が新技術に触れる機会を継続して提供する

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・5限 R4509004 [情報科学の基礎] 高嶋 章雄】

Q6(授業資料)の結果が比較的高く「とても適切」「適切」のみの回答であった。棒や紙を使ったアナログな暗号解読、電話帳を破ることによるアルゴリズムの説明、デジタル資料に加え紙を配布したことに対するポジティブなアンケート結果(自由記述)など、DXとは真逆の授業展開にも一定の理解や好みがあることを再認識した。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜・3限 28561001 [Javaプログラミング] 高嶋 章雄】

Q5(授業進度)Q8(教え方)Q9(総合満足度)の値がいずれも3.17で比較的低い値であった(回答者6名)。他の教員が教えるJavaプログラミング演習と連携し、言語の特徴をさらに深く学修する内容であるが、授業中の様子を見ても、特に今年度の学生にとっては難易度が高かった模様であった。学修レベルを下げずにモチベーションを維持するため、ゲーミフィケーションなどの仕組みを取り入れる必要がある。

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜・1限 28560001 [C言語プログラミング] 高嶋 章雄】

昨年度の結果をもとにPDCAを回すよう改善したつもり(コーディング学習ゲーム・動画の追加)であったが、結果は改善しなかった。Q6(資料、ビデオ、パウポの適切さ)は3.3、Q8(教員の教え方)は3.2で、学科平均よりも低い。昨年度記載したとおり、理解が追いつかず学習を放棄する学生が多かったと感じている(2023年度は科目を削除)。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・2限 22511109 [ゼミナールⅢ] 高嶋 章雄】

コロナ感染拡大も視野に入れ、後半の複数回をハイフレックス型で実施した。Q7(オンライン授業におけるシステム活用)の結果が比較的高く(3.86)、自由記述においても「ハイフレックス制度を用いており、授業スタイルが選べて非常に良かった」「タイムラグなくスムーズに授業が進められたと思う。またチャット機能やグループ分けも活用できてグループ内での進行も円滑に進んでよかった。」という意見が得られ、好評であったように思う。教職員が思う以上にデジタルネイティブ世代の対応が柔軟であることを改めて感じ、大学側にも柔軟な対応が求められることを再認識した。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	R2578501	プロジェクト実践I
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509004	情報科学の基礎
前期	総合ビジネス・情報	2	22509001	情報科学(情)
前期	総合ビジネス・情報	2	22510609	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	28561001	Javaプログラミング
前期	総合ビジネス・情報	2	28576001	WEBプログラミング
前期	総合ビジネス・情報	2	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
前期	リベラルアーツ(全学科)	1	R4LA5001	湘北スタートアップセミナー
後期	総合ビジネス・情報	1	22510108	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	28560001	C言語プログラミング
後期	総合ビジネス・情報	1	28571501	ビジュアルコミュニケーション
後期	総合ビジネス・情報	1	R2579001	プロジェクト実践Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511109	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ
後期	総合ビジネス・情報	2	R3564501	社会人のためのAI活用入門

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	R2578501	プロジェクト実践I
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509004	情報科学の基礎
前期	総合ビジネス・情報	2	22510608	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	28561001	Javaプログラミング
前期	総合ビジネス・情報	2	28576001	WEBプログラミング
前期	総合ビジネス・情報	2	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
前期	リベラルアーツ(全学科)	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
前期	リベラルアーツ(総合・生活)	1	R5LA0401	情報リテラシー
後期	総合ビジネス・情報	1	22510107	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	28571501	ビジュアルコミュニケーション
後期	総合ビジネス・情報	1	R2579001	プロジェクト実践Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	R5567501	プログラミング応用演習
後期	総合ビジネス・情報	2	22511108	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ
後期	総合ビジネス・情報	2	R3564501	社会人のためのAI活用入門
後期	リベラルアーツ(生活)	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	講師
教員氏名	金澤 良晃

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主に「情報科学の基礎」、「MOS実践」、「事務職のためのExcel応用(VBA)」、「データ分析演習」、「デスクワーク入門」など情報系に関する授業を担当している。また2023年度から就業力育成科目である「PC活用ベーシック」も新たに開講し担当する。PCの基礎知識や応用的な操作は、DX人材を育てるうえで欠かせない事項であることから、効率よく効果的に活用できる人材を育てていく。

「情報科学」では、コンピュータの基本的な仕組みを理解することで、学生が自分に必要な情報技術を、自分で選択できるようになることを目的としている。

「MOS実践」では、MOS Excel資格を取得することによって、事務で必要とされるExcelの基本操作を習得することを目的としている。

「PC活用ベーシック」では、湘北の様々な授業課題に取り組めるIT知識を教えるだけでなく、就職活動におけるメールやファイルの取り扱い方なども含めて習得させることを目的としている。

「デスクワーク入門」では、日商PC検定3級(データ活用)取得を目指し、パソコンやデータ活用の基礎知識を習得することを目的としている。

「データ分析演習」では、実務で行うデータ分析を体験することで、データを使った問題解決の手法を習得することを目的としている。

「事務職のためのExcel応用(VBA)」では、小さな単純命令を組み合わせ、事務作業の自動化を推進できる人材を育てることを目的としている。

「ゼミナールⅠ」では、Excelによる基本的なデータ分析の活用法習得を目的に、「エクセル分析ベーシック」資格の合格を目指している。

「ゼミナールⅡ」では、これまで大学で学習したビジネス知識を活かし、新たなビジネスアイデアの創出に挑戦する。身近な問題を解決する力を育むことを目的としている。

「ゼミナールⅢ」では、ゼミナールⅡで生み出したビジネスアイデアをさらに具体化させることを目指す。

「インターンシップリテラシー」では、学生にインターンシップへの意気込みや、社会人としての心構え、そしてマナーをしっかりと身につけさせることを目的とする。

また課外活動では、調査広報委員会の顧問として、学生たちの意見を尊重しつつ、自身の広報経験などを元に助言し支援していく。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1) 目的を明確化し、そのためのスモールステップ(小目標)や筋道を設定することで、学生が主体的に学ぶ姿勢を継続する。これを繰り返すことで好循環を発生させ、目的達成に導いていく。

2) 実務で活かせるビジネス知識やPC活用法を伝授する。私の実務における成功や失敗の経験を伝え、学習している知識やPC操作がどのように活用できるか想像できるようにする。

3) 社会人として求められるコミュニケーション力を育成する。不明点があった場合の質問の仕方、遅刻/欠席する場合の連絡の仕方、ミスをした時の責任の取り方など、実社会でも重要となる基本的なやり取りを、授業内外で指導していく。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え(教育の理念)を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1)「情報科学」では、コンピュータに関する興味関心を高める工夫をしている。例えば、コンピュータの歴史を扱った映画を見させる、音のデジタル化では音を聞き比べる、手動でデータを暗号化し友達に送ってみる、など。

また、コンピュータの基本的な仕組みを理解してもらうために、文系でも理解できる言葉遣いやイラストを入れて、丁寧な資料作りと説明を心がけている。資料は穴埋め式にして、学生の手を動かす、眠くならないように工夫している。

2)「MOS実践」では、単にExcelの使い方を教えるのみならず、なぜこんな機能があるのか、いつこのような機能を使うのかなどを含めて説明するよう工夫している。学生が、自らPCを操作し、できなかった問題を重点的に復習できるように「自己管理シート」に学習記録を付けさせている。これが合格に向けた効率の良い学習法となっている。

また各問題を学生に解説してもらう反転授業を導入している。

3)「デスクワーク入門」では反転学習を取り入れ、班で調査した問題を授業内で発表させている(反転授業)。またその発表を聴いた学生たちは、Googleフォームに評価を入力する。教員は全員の評価を集計して発表者にフィードバックすることで、次回以降の参考にしてもらう工夫をしている。

4)「データ分析演習」では、やや高度なExcel操作をする場面が少なくない。一度教員から教えてもらっただけでは直ぐに忘れてしまう可能性が高い。そのため授業動画をZoomで録画し、即日湘北eラーニングにアップするようにしている。欠席した学生や、理解度が低い学生がいつでも何回でも動画を見て学習できるように工夫している。

5)「事務職のためのExcel応用(VBA)」では、まず一つ一つの単純な処理命令を教える。その後、それらを複数組み合わせることで、応用的なプログラムを作れることを体験してもらう。課題では、見本となる完成した自動処理を見せ、どうVBAを組み合わせれば同じことを実現できるか考えさせる工夫をしている。

6)「ゼミナールⅠ」では、演習に重きを置き、練習課題や模擬問題を繰り返し解かせるようにしている。また多くの学生が間違えた問題を中心に、丁寧な解説をすることを心がけている。授業動画をZoomで録画し、即日湘北eラーニングにアップするようにしている。欠席した学生や、理解度が低い学生がいつでも何回でも動画を見て学習できるように工夫している。

7)「ゼミナールⅡ」では、ビジネスアイデアを考えやすいリラックスした雰囲気を出すことを心掛けている。ゲーム形式でアイデアを考えたり、ブレインストーミングで発散させたりしている。

8)「ゼミナールⅢ」では、外部のビジネスコンテストに応募した。また卒業論文を書かせることで、アイデアを他人が読んで理解できる力を育てた。

9)「インターンシップリテラシー」では、キャリア教育センター長をはじめ他教員とも協力し合いながら、授業を組み立てていく。学生に飽きがないように、動画コンテンツを見せたり、ロールプレイを活用したり工夫した。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

「情報科学」の授業評価アンケートでは、「苦手意識が強い分野だったが、資料がとても分かりやすく良かった」「毎週の課題で、授業内容を自然と復習できるのがありがたかった」という声が多数あった。これは文系学生にとっても分かりやすい資料・説明表現を心がけてきた結果であると考えられる。

「MOS実践」では、受講者72人中57人がMOS Excelの本試験を受験し、その内57人全員を合格させることができた。(合格率100%)これは自己管理シートに基づき、学生たちが主体的に学習内容を管理できる仕組みを徹底させた結果であると考えられる。

「デスクワーク入門」では、日商PC検定(データ活用)3級の知識科目を担当した。受講者67名中62名が受験し、知識科目については全員が合格基準である70%以上の点を取ることができた。これは1問ずつ学生自身に問題を調査させ、主体的に学習できる環境を整えた結果であると考えられる。

「データ分析演習」では、毎回の授業動画を録り、即日湘北eラーニングにアップした。そのため、アンケートでは「授業動画を毎回残していただいたおかげで、欠席した際やもう一度見返したいと思ったときに何度でも見ることができるので非常に良かったです。他の授業でもこれがあると復習がしやすく理解度がさらに上がるのではないかと思います。」というコメントをもらうことができた。

「ゼミナールⅠ」では、全体平均3.69ポイントと比較的高い評価を得ることができた。昨年度よりもエクセル分析ベーシック検定の受験者数(17名中15名受験)が増えた。本試験の合格者数は、13名だった。

「ゼミナールⅡ」では、石崎先生のゼミと共同し「学内ビジネスコンテスト」を開催することができた。高野瀬学長にもご参加いただいた。学生同士でアイデアを競わせることで、他者のアイデアの良さに気づく機会にもなった。

「ゼミナールⅢ」では、全員が卒業論文を完成させることができた。一人ひとりのアイデアを相互にチェックしあったり、教員による細かい指導により完成度の高いものとなった。

「インターンシップリテラシー」では、学生たちにインターンシップに対する取り組み姿勢をしっかりと教えることができたと感じている。欠席者や居眠りも少なく、みんな真剣に授業に参加していた。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

今後学内で開催されるFD活動や、授業公開見学に積極的に参加して、自身の授業改善に資することを取り入れていく。

また学生アンケートの内容を真摯に受け止め、以下の通り次の授業改善へとつなげていく。

「情報科学」では、配付テキストをPDF化し、BYODに対応していく。なお穴埋め式も継続していくために、配付前にPDFに空欄に入力できるよう設定していく。

「MOS実践」では、やる気の低い学生へのサポートで、逆切れされてしまうことがあった。もし、またそのような学生が現れた場合は、深追いせずに距離を取りつつサポートしていく。

「デスクワーク入門」のアンケートでは、「グループワークはかなり苦痛でした。人によってちゃんとやってくれる人もいればいい加減な人がいて真面目にやっている人が損するようなことが多々ありました。」という声があった。本授業でグループワークを行う目的を都度説明し、全員が心地よく取り組めるように指導していく。

「データ分析演習」のアンケートはおおむね良好であった。しかし授業は教員が一方的に解説し、学生がそれに倣ってExcelを操作する場面が多かったため、もう少し学生が主体的に授業に取り組める工夫をしていく。

「PC活用ベーシック」は新たな科目であるため、非常勤講師(5名)と都度連携を取って授業を展開していく。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

- 1) 学生アンケートで3.5以上を取る
- 2) アクティブラーニング型の手法を多く取り入れる
- 3) 学生の興味関心を引き出す学習教材の開発

II. 長期目標

学生が卒業後に本当に役立つ知識やスキルを身に付けられる授業を展開する。そしてそれを主体的に学べるよう学習教材を整備していく。課外活動において授業で習った知識やPCスキルを活用できるように、支援をしていく。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・1限 R4509001 [情報科学の基礎] 金澤 良晃】

昨年度のアンケートで「授業のペースが速い」という声が複数あった。

そのため、今年度は教える内容を絞り、実演やワークの時間をより多く取った。

具体的①光の3原色について昨年度は説明だけだったが、今年度は3色の懐中電灯を使って光の合成実験を行った。

具体例②Pythonプログラミングの時間を2倍に増やした。またヒントを提示し、学生が自力で解けるよう工夫した。

具体例③転置式暗号方式について昨年度は説明だけだったが、今年度は学生1人に1本棒を用意し、隣の学生と暗号のやり取りをさせた。

これらの結果、「授業のペースが速い」という声は減り、「分かりやすかった」などの評価を多く得ることができた。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・2限 22510612 [ゼミナールⅡ] 金澤 良晃】

学生が主体的に「ビジネスアイデアの創出」ができるように、リーンキャンパスやアイデア出しのツールを活用した。

ゼミ内選考会の評価方法として「ゼミ生の評価アンケートの結果で決める」としたが、教員視点で優秀と感じた学生が選ばれなかった。そのためか、1位になった学生に表彰状を渡すときに「要らないです」と言われてしまい、場が盛り下がってしまった。

次回は、学生だけで評価させるのではなく、教員評価50%+学生評価50%として選考するように改善する。

またグループワークを活用しているものの、なかなか学生同士で議論が盛り上がらなかった。まずは簡単なゲームなどでチームビルディングを行い、学生間の緊張を解してからグループワークを行うように工夫していこうと思う。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・2限 31518501 [MOS実践] 金澤 良晃】

昨年度はMOSの90問の問題を教員が全て解説したが、今年度は反転学習を取り入れて、学生が1問1問解説し教員が補足する形式で行った。

また昨年度は、全員の模擬試験の点数を公表した結果「低い点数をみんなに見られて不愉快だった」という声が出てしまった。そのため、今年度は合格点を超えた学生のみ点数を公開し、超えていない学生は「未達」という表現にして具体的な点数を見せないようにした。

これにより、学生から以下のコメントを得ることができた。

「模擬試験以前の授業では、MOSの試験対策に加えて話し方のコツまで身につけることができるという一石二鳥の授業であった。生徒が合格できるようにグラフや表を用意してどれくらいの人数が合格点に達しているかを表してくれたことで、学生の向上心が上がったのではないかと思った。非常に楽しい授業でした。」

なお今年度のMOS合格実績は、67名中67名合格(100%)であった。

■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・2限 22510112 [ゼミナールI] 金澤 良晃】

本ゼミでは「エクセル分析ベーシック」資格の取得を目指した授業を展開しています。昨年度との違いは、授業動画を毎回録り、授業終了後にすぐにe-Learningにアップしたことです。それにより理解不足の学生や、欠席した学生が動画で学習することができ、落ちこぼれ率を低減させました。アンケートでもその点を評価してもらえました。

また各回の前半で解説をし、後半ですぐに模擬問題を解かせるようにしました。次の回で1問1問の正解率を公表し、不正解が多かった問題を丁寧に解説しました。

その結果、受験者数は昨年度2名 → 今年度15名に増え、合格者数も2名 → 10名に増えました。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・1限 31512501 [デスクワーク入門] 金澤 良晃】

教員が単に知識問題の解説をすることよりも、反転学習を通じて学生たちに解説発表をしてもらうことに重きを置きました。3人ずつの班を作り、毎回の授業で発表してもらいました。

発表を聞いている他の学生は、互いに良いところと改善点を評価し、授業後に私が集計して個別にメールでフィードバックしました。

また毎回12問ずつ解かせ、自己管理シートに結果や備忘メモを書かせる課題を与えました。これにより効率よく復習することができたと思います。

第15回目の授業で模擬テストを行いました。その前にそれに類似した模擬問題を課題で与え、「家で何回でも解いてきて良い」「合格点を出せた人は退室してOK」としたところ、多くの学生は事前準備してきていました。

本授業の目標の一つである「日商PC検定(データ活用)3級」の知識問題では、34名中33名が合格点(70%以上)を取ることが出来ました。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【火曜・1限 31512502 [デスクワーク入門] 金澤 良晃】

教員が単に知識問題の解説をすることよりも、反転学習を通じて学生たちに解説発表をしてもらうことに重きを置きました。3人ずつの班を作り、毎回の授業で発表してもらいました。

発表を聞いている他の学生は、互いに良いところと改善点を評価し、授業後に私が集計して個別にメールでフィードバックしました。

また毎回12問ずつ解かせ、自己管理シートに結果や備忘メモを書かせる課題を与えました。これにより効率よく復習することができたと思います。

このやり方について、一人の学生から「正直、グループワークはかなり苦痛でした。人によってちゃんとやってくれる人もいればいい加減な人がいて真面目にやっている人が損するようなことが多々ありました。なので、日商の知識問題なら過去問解いて分からない問題は先生が解説とかで良かったと思います。自己管理シートは良かったと思います。」とアンケートコメントを頂きました。

真面目にやっている方が損をしないように、発表時に欠席した学生の点数を大幅減点するなど差をつけていました。次年度は、そうしたことも含めて学生に周知し、グループワークのやり方は来年度も継続していく予定です。

第15回目の授業で模擬テストを行いました。その前にそれに類似した模擬問題を課題で与え、「家で何回でも解いてきて良い」「合格点を出せた人は退室してOK」としたところ、多くの学生は事前準備してきていました。

本授業の目標の一つである「日商PC検定(データ活用)3級」の知識問題では、32名中31名が合格点(70%以上)を取ることが出来ました。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・2限 22511112 [ゼミナールⅢ] 金澤 良晃】

ゼミⅡとⅢのテーマは、「ビジネスアイデアの創出」です。ゼミⅡで作ったアイデアをさらに発展させたり、あるいは更に別のアイデアを考えてもOKとしました。また学生によっては、なかなか良いアイデアが出ない学生もいるため、ゼミⅢの後半では「既にあるビジネスアイデアの研究」も可としました。

卒業論文を書くための期間を長めに取りました。卒論の個別進捗管理や、学生同士の相互フィードバック、教員からの質問やフィードバックを繰り返し、(短大生としては)全体的に質の高い卒論を出してもらうことが出来たと思います。

単にアイデア出しを訓練する授業ではなく、「世の中の商品やサービスは、先人たちの知恵と努力によって作り出されてきたものだ」という気付きを得てもらうことにも注力しました。

その結果アンケートでは、「世の中が様々なアイデアのおかげで、あまり不便なく暮らしやすくなっていると感じるので感謝していこうと思います。」とコメントをもらうことができました。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜・2限 22517101 [データ分析演習] 金澤 良晃】

昨年度のテキストについて、学生から「難しく何をやっているかよく分からなかった」というコメントをもらった。さらにテキスト全体を学習する時間がなく、3割くらいは未学習のまま終わってしまった。

そのため今年度は、「多くの学生がついてこれるレベル」で、全15回でちょうど全ての内容を学習できる分量のテキストを選んだ。ただテキストの内容だけではなく、より便利な操作方法や、実務ではこう使うといった豆知識もふんだんに紹介していった。毎回の授業で前回の振り返りを行い、知識の定着を図った。

学生からは「教科書以外のことも、学ぶことができ、とても良かったです。金澤先生の豆知識や、知っていると効率の良い技を沢山学ぶことができたので、将来役に立たせます。」というコメントをもらった。

また欠席者や理解不足がある学生が動画を見れるように、各回の授業を録画しe-Learningにすぐにアップした。アンケートでは「授業動画を毎回残していただいたおかげで、欠席した際やもう一度見返したいと思ったときに何度でも見ることができるので非常に良かったです。他の授業でもこれがあると復習がしやすく理解度がさらに上がるのではないかと思います。」と評価を頂いた。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・3限 22517102 [データ分析演習] 金澤 良晃】

昨年度のテキストについて、学生から「難しく何をやっているかよく分からなかった」というコメントをもらった。さらにテキスト全体を学習する時間がなく、3割くらいは未学習のまま終わってしまった。

そのため今年度は、「多くの学生がついてこれるレベル」で、全15回でちょうど全ての内容を学習できる分量のテキストを選んだ。ただテキストの内容だけではなく、より便利な操作方法や、実務ではこう使うといった豆知識もふんだんに紹介していった。毎回の授業で前回の振り返りを行い、知識の定着を図った。

学生からは「Excelの知識など、更に詳しく学ぶことが出来ました。1年2年と様々な授業でExcelなどについて学びましたが、まだまだ知らないことが多いのだと、学ぶことがとても楽しかったです。」というコメントをもらった。

また欠席者や理解不足がある学生が動画を見れるように、各回の授業を録画しe-Learningにすぐにアップした。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・1限 R3518001 [事務職のためのExcel応用(VBA)] 金澤 良晃】

プログラミング経験がないビ情学生に対して、まずは興味を持ってもらうことから始めました。「VBAが少しでもできると、仕事がこんなに楽になる」といった事例を多く見せました。

テキストの内容を全て教えるのではなく、重要なポイントだけに絞り、それらを組み合わせることで様々なプログラミングが可能であることを解説しました。また重要な構文(繰り返し、条件分岐)については、何回も事例を変えて慣れてもらいました。

事例で使ったプログラムは、就職後も使えそうなものを私の方で考案しました。

毎回の授業を録画し、即日e-Learningにアップしました。これにより欠席した学生や、理解が追いつかなかった学生がいつでも動画を見て学習できるようにしました。その結果、アンケートでは、「授業動画を毎回残していただいたおかげで、欠席した際やもう一度見返したいと思ったときに何度でも見ることができるので非常に良かったです。他の授業でもこれがあると復習がしやすく理解度がさらに上がるのではないかと思います。」と好評を頂きました。

他にも以下の好評を得ました。

「VBAってすごいというのが1年間やってみての感想です！この授業とらなかった人は損だなと感じるくらいVBAできてよかったです。もっと詳しくなりたいです！」「かなり難しい内容でしたが、最後まで自分なりに取り組むことができ良かったです。」「VBAなんか自分には無理だと思っていましたが、分かりやすくお教えいただいたおかげで、実用できるまでの簡単なスキルを手に入れることができました。」

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【火曜・3限 26IS0505 [インターンシップリテラシー] 金澤 良晃】

テキストの内容を解説するだけでなく、具体例を示したり、関連するイラストやYoutube動画を見せたりして理解を深めさせる工夫をしました。またグループワークを行って、自分の意見をまとめ発信する力や、他者の意見を聞く力、チームワークなどを養う工夫をしました。

毎回の授業で、授業の理解度や気づきを提出させることで、学生の振り返りを促しました。

次年度へ向けた改善点としては、アンケートの「授業の予習・復習」で「全くしなかった」が約46%もいたことです。次年度は、何かしらの課題を毎回与えることが必要かと感じました。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
✓	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

<https://drive.google.com/open?id=1XTgwgB3xX.RBDXwvRya5r4Pn6nrB-8ZS>

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509001	情報科学の基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509002	情報科学の基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509003	情報科学の基礎
前期	総合ビジネス・情報	2	22510612	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	31518501	MOS実践
前期	総合ビジネス・情報	2	31518502	MOS実践
後期	総合ビジネス・情報	1	22510112	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	31512501	デスクワーク入門
後期	総合ビジネス・情報	1	31512502	デスクワーク入門
後期	総合ビジネス・情報	2	22511112	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	22517101	データ分析演習
後期	総合ビジネス・情報	2	22517102	データ分析演習
後期	総合ビジネス・情報	2	R3518001	事務職のためのExcel応用(VBA)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0205	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0405	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0505	インターンシップリテラシー

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509001	情報科学の基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509002	情報科学の基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509003	情報科学の基礎
前期	総合ビジネス・情報	2	22510611	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	31518501	MOS実践
前期	総合ビジネス・情報	2	31518502	MOS実践
前期	就業力育成(総合)	1	R5BU0901	PC活用ベーシック
後期	総合ビジネス・情報	1	22510111	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	31512501	デスクワーク入門
後期	総合ビジネス・情報	1	31512502	デスクワーク入門
後期	総合ビジネス・情報	2	22511111	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	22517101	データ分析演習
後期	総合ビジネス・情報	2	22517102	データ分析演習
後期	総合ビジネス・情報	2	R3518001	事務職のためのExcel応用(VBA)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0204	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0404	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0504	インターンシップリテラシー
後期	リベラルアーツ(生活)	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	講師
教員氏名	北川 栄里子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス情報学科の教員として、主に社会で必要となるビジネスマナーやプレゼンテーションなどのビジネス・コミュニケーションに関する授業を担当している。
2023年度の担当科目は、別記のとおりである。
ビジネスマナーやコミュニケーション能力は、あらゆる業種そしてあらゆる職種においても必要となるものであり、就職活動においてもその後の社会人生活においても通用する人材育成は、本学の強みであり、同時に学生自身の強みとして身に付けさせたい最も必要な能力である。ゆえに、入学の時点からその後の社会人生活を意識させ、2年間で社会で通用する能力が身に付くようアクティブラーニングを多く取り入れた指導を行っている。
「オフィスワークの基礎」では、社会人として必要なビジネスマナーの基礎的な部分についての理解と知識の修得を目標としている。
「オフィスワーク演習Ⅰ」では、「オフィスワークの基礎」で得た知識を、演習を通じ、実践能力として身に付けることを目標としている。
「オフィスプレゼンテーション」では、どのような場面においても、場面にふさわしい的確な方法で表現する力の修得を目標としている。
「現代社会コミュニケーション論」では、世の中の様々な事象に対し、ただ受け止めるのではなく自ら考えて答えをだす力の育成と、現代社会におけるコミュニケーションの在り方を模索させることを目標としている。
「組織心理学」では、社会で遭遇しうる事象に対して、心理学的見地から物事を見ることで、冷静に判断し対処できる人間力の育成に繋げることを目標としている。
また、課外活動では、財務委員の顧問を行っている。課外活動の指導においては、活動方法等についてはこちらから一方的な答えや意見を出さず、学生自身で考え行動し失敗を含めて学びを深めていけるよう、学生の主体性を何よりも重んじている。学生間のメールやラインでのやりとりの際のグループに入り常に活動を見守っているものの、基本的にはこちらから意見を出さず、必要な際のみアドバイスや指導を行い、責任者としての責務だけを負うように努めている。
私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、誰からも信頼されるビジネスマナーと、自ら考える力、それを表現できるコミュニケーション能力、そして変化していく世の中に対応できる感知力や問題解決能力などの人間力を育成することである。これらの教育活動で得た知識や能力を基に、卒業後、円滑に社会人生活をスタートし、良好な人間関係と信頼関係を築き、困難を乗り越えながら幸せな人生を歩んでいけるよう、学生の人生に社会人基礎力の種苗を植えることを責務とする。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。

- 1) 自ら考えて行動し、仲間と協働し共創できる人材の育成
「問題解決力」「計画力」などの『考える力』、「主体性」「実行力」などの『前に踏み出す力』、「発信力」「拝聴力」などの『チームで働く力』、これらの社会人基礎力を強化する。
- 2) 生涯の財産となる実践力の醸成
「知っている」だけでなく、実際に「することができる」、社会生活で役立つ力の養成に努める。
- 3) 学生に寄り添った丁寧な対応
教育とは単なる知識の伝達ではなく、学生の状況や今後の人生に寄り添い、必要な能力を育成することであると考える。一人一人が自信を持てるよう、内面にも寄り添った対応を行う。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の教育理念を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1. どの科目においても、始めから答えを与えるのではなく、学生自身で考える時間を多くとっている。その際には、解答を探すだけでなく、なぜかという理由の部分も合わせて考えるよう促し問いかけている。このことは、「課題発見力」および「考える力」を養い、様々な物事に対し、技能だけではなく心で対応する「人間力」や「臨機応変に対応する力」の育成に繋がると考える。

各自が考えた内容については、皆の前で発表する機会を必ず設けている。人前で話すことで、内容を整理し正確に伝えるための「発言力」「表現力」といった「プレゼンテーション能力」、人の意見にしっかりと耳を傾ける「拝聴力」、そして多様な考えや価値観があることを知りそれを受け入れる「柔軟性」と「想像力」を養う。

また、グループワークを多く取り入れている。グループ討議を通じて、異なる意見をひとつにまとめる「調整能力」「リーダーシップ」「時間管理能力」を育成する。

2. 「知っている」を「できる」ものにするために、知識を実践するための演習の場を多く取り入れている。しかし、演習能力には、かなりばらつきがあることと、人前で何かをするのが不得意な学生も多いため、演習の際には、自信を持ってもらえるよう特に言葉がけに工夫をしている。改善点を指摘するのではなく、必ずいい所を見つけてあげて褒めてから、さらに良くなるためのアドバイスをを行い、学生が楽しく自信を持ってステップアップできるよう心掛けている。

「オフィスワークの基礎」においては、1年次前期科目であることから、今後自主的に学びを深めてもらうために、社会人に向けての意識付けを大切にしている。学生でも想像しやすい簡単なケースを題材に、まずは自分で考え意見交換させ、そこででた意見に対して、自分の社会人経験の事例などを交えながら解説し、わかりやすい説明を心掛けている。

「オフィスワーク演習Ⅰ」では、「オフィスワークの基礎」で学んだ内容を、実際に社会で使える実践力として表せるよう、演習を中心とした授業を行っている。皆の前で実技を行い、同級生の実技や意見からも気づきや学びを得るための相互評価制度を取り入れている。

最初は多々指摘したい点があるが、回数とともに自然に改善していく事項についてはあえて指摘せず、本質的な部分のみ毎回アドバイスをを行い、失敗しても必ずいい部分をひろってあげることで自信を持てるようにしている。

「オフィスプレゼンテーション」では、状況に応じたプレゼンテーションの手法を教示するとともに、毎回全員に人前で話す機会を与えている。はじめは、ごく身近で簡単な興味もてる内容を題材とし、小グループ内での意見交換からはじめ、徐々に長さや内容を深めることで、人前で話すことが苦手な学生も、楽しく臆することなく参加できるようにしている。

「現代社会コミュニケーション論」では、考える力の醸成と多様な価値観に触れるを目標としているため、あえて明確な答えを出さず、「考える」作業と「ディスカッション」をメインにしている。理解を深めるために、自分の経験談や意見を毎回紹介しているが、その際には、教員として正解を示しているのではなく、考え方や価値観には正解・不正解がなく、皆と同じ色々な考えのひとつに過ぎず、それに対してどう考えるかの自分の価値観形成の単なる材料として捉えて欲しいことを、予め強調して伝えている。これらの作業を通じて、自分自身の考えや価値観に気づくことで、個々の軸を形成し、今後の人生を乗り越えていく力になると考える。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の学生による授業評価アンケート結果では、どの授業においても学生の満足度が高かった。コメントでは、「オフィスワークの基礎」に関して、「すごくためになる授業でした」「グループワークや実際の対応の練習ができ、社会人になるための力を身に付けることができた」との声があり、学生に実践力を身に付けることができたことが実感できた。また、「オフィスプレゼンテーション」においては、「湘北で今まで学んだプレゼンテーションはビジネス向きではない気がしたが、この授業で資料の作り方や話し方の見直しができる」「本題に入る前にグループディスカッションやお互いに発表し合う場を作ることで、社員になった際の疑似ロールプレイングができ、非常に身になりました」など、好評コメントを得ることができた。

これらは、昨年同様、アクティブラーニングを多く取り入れ、学生が飽きることなく主体的に楽しく取り組めるように心がけた事と、演習だけではなくパワーポイントの資料やオンデマンド動画なども活用しながら理解を深めさせたことが、良いアンケート結果に繋がったと考える。

しかしながら、どの授業も復習にあてた時間が1時間を切っている学生が多く、改善点として受け止めたいと思う。

学生支援については、「学生生活の支援」および「就職活動のサポート」について意識的に行った。特に自分のゼミ生に対して、一人一人に寄り添った対応を心がけ、就職活動については、志望理由の書き方などをオンデマンド動画でまとめて春休みに配信し、授業がない時期にも支援を行った。また、個別に相談にのり、エントリーシートの作成などをフォローした。その結果、ゼミの授業アンケートでは、「就職活動でも親身に相談にのってもらった」「就活で大切な要点をまとめてくれたのでわかりやすかった」「就職情報をLINEで送ってくれるので助かる」「男子一人の中親身に話を聞いてくれた」「一人の生徒にしっかり向き合ってくれる」など、多数の良いコメントを得ることができ、一人一人を大切にしていこうという思いが学生に伝わったことが感じられた。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

教育改善の取り組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。また、学生および他の教職員からの授業アンケートの結果を踏まえ、善点を模索しながら授業をより良いものにするために日々努めている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである

I. 短期目標

- 1) 授業評価アンケートの数値向上
- 2) 社会のDX化に対応すべく、オンラインでのコミュニケーション能力の醸成
- 3) ひとりひとりに寄り添った学生目線での授業展開

II. 長期目標

- 1) どんな時代でも通用する人間力と社会人基礎力の育成
- 2) 時代の変化に合わせた教材の開発

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・2限 22510610 [ゼミナールⅡ] 北川 栄里子】

・個人面談の機会を増やし、学生一人一人の状況に寄り添った指導を心掛けた。その中で、就職活動のアドバイスも行っていたが、エントリーシートが上手に書けていないなど共通項として感じたことは、全体にポイントをまとめたオンデマンド動画を作成し配信した。その結果、授業評価アンケートのQ12では、3.57と高い満足度があったことが確認できた。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【火曜・3限 22544501 [オフィスプレゼンテーション] 北川 栄里子】

課題をどこに出してよいかわからない時があったとのコメントがあった。今年度より、よりEラーニングを活用し、作成したPPTの資料や自分を撮影した動画などの資料と、課題と、1度に2つ提出場所を作成したり、また、Eラーニングを活用した相互評価を取り入れたところ、期日に提出してこない学生が再度相互評価できるよう別の部屋に再提出場所を作成し、とりこぼしのないように工夫したつもりであったが、確かに、提出場所が多すぎてわかりにくい面はあったかもしれないと反省した。相互評価として利用することは初年度でトライアル的な意味もあったため、もっとわかりやすい課題提示方法について模索していきたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・3限 22544502 [オフィスプレゼンテーション] 北川 栄里子】

プレゼンテーションの演習を毎回取り入れているが、短い時間で簡単な題材から入り、個人でのプレゼンテーション、少人数のグループプレゼンテーション、大人数でのグループプレゼンテーション、大勢に向けて資料を使ったプレゼンテーションと、段階をへて自然と話す技術が身に付くようにした。またとりあげる題材も、身近なものから初め、最後は社会的なテーマについても論じられるよう導いた。学生からのコメントで、「今まで習ったプレゼンテーションはビジネス向きではない気がしていたが、この授業では、話し方や資料の作り方を見直すことができた。本題に入る前に、グループで話し合ったりディスカッションする時間があったので、社会人の疑似ロールプレイングができ、非常に身になった」とあった。皆がみな、大勢の前で資料を使ったプレゼンをするわけではなく、実際は、小単位での会議や、取引先とのやりとりなどの際に、プレゼンテーション能力が必要とされることを踏まえ、シミュレーション会議や、少人数での意見交換などを多く取り入れたことが良い結果につながったと感じる。

■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・2限 22510111 [ゼミナールⅠ] 北川 栄里子】

昨年度のゼミナールの授業評価アンケートで、20人中19名が満足していると付けている中、1名だけ満足していない学生がいたため、学生1人1人に向き合うよう心掛けた。個人面談の機会を増やす他、授業の進行やグループワークの中で、多数決で何かを決める先にも、少数派の人にもなぜ反対か意見を言ってもらい、皆が納得して先にすすめるようにするなどの工夫を行った。また、ゼミの内容についても、学生の希望や意見を随時取り入れてすすめるようにした。その結果、Q9の「授業に満足しているか」と、Q13の「コミュニケーションを密接にとり親身に相談にのるか」の項目で、そう思わないと答える学生はおらず、3.91と高い評価を得ることができた。また、「男子一人の中親身に話を聞いてくれた」「一人一人に向き合ってくれるので、おいてきぼりになることがなく楽しく授業ができた」とのコメントを得ることができた。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・2限 22511110 [ゼミナールⅢ] 北川 栄里子】

学生より「グループワークが毎回同じメンバーでつまらなかった」とのコメントがあった。ゼミでは、単に色々な意見を取り入れるだけではなく、社会の縮図として、気の合わないメンバーとも長くチームとして活動する中で上手くコミュニケーションをとる工夫をしたり、お互いの得意なところを引き出しながらチームビルディングを強固にして欲しいとの思いから、ゼミⅡ・Ⅲ通じて同じメンバーで活動させていたが、単に同じメンバーで活動させるだけでは、こちらの意図通りに進んでいかないことがよくわかった。学生の意向を取り入れ、グループワークのメンバーを適宜変えたり、同じメンバーで活動させる時は、会話のはずんでいないグループにはこちらから何らかのアシストをするなどし、皆が楽しくグループワークに取り組み、その中でチームビルディングスキルを身に付けられるようアシストしていきたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・3限 23546501 [組織心理学] 北川 栄里子】

学生の取り組み状況について、昨年度3.26だった評価が3.62に上がり、全員が「積極的に取り組んだ」もしくは「とても積極的に取り組んだ」につけていた。人数が多い必修科目では、中にはやる気のない学生もでてきてしまうので、全員が自発的に取り組めることを目標に授業の進め方を昨年度より工夫した。具体的には、今年度より、自作のワークシートを作成して、そこに記入をさせた。昨年度のように、ただレポート用紙に書かせると、やる気のある学生とそうでない学生との記述量に明らかに差が出るが、一つ一つの項目に対し、記述量の目安がわかるようにした。また、自分の意見だけではなくグループで話し合った内容と、他の人の意見を記入する欄を作り、話合わずに一人で完結させようとする学生がでないようにした。また、必ず一人2回は発言させる機会を設けるだけでなく、それに対して一人一人にコメントを返し、適宜自分の経験談を交え、学生の気をひくように努めた。さらに、講義、考える、記述する、発表する、グループで話し合う、このサイクルを短いスパンで繰り返し、飽きないようにした。それぞれの時間が長いと、早く終わった人は、ぼーっとしたり、関係のないお喋りを始めたりするので、そういう隙をなるべく与えないようにした。そして、適宜RQコードを使用しアンケートを行ったり、心理テストを行うなど、興味をひくよう工夫した。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	26539501	オフィスワークの基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	26539502	オフィスワークの基礎
前期	総合ビジネス・情報	2	22510610	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	22544501	オフィスプレゼンテーション
前期	総合ビジネス・情報	2	22544502	オフィスプレゼンテーション
前期	総合ビジネス・情報	2	26545501	現代社会コミュニケーション論
後期	総合ビジネス・情報	1	22510111	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	22540502	オフィスワーク演習Ⅰ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511110	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	23546501	組織心理学
後期	総合ビジネス・情報	2	23546503	組織心理学
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0206	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0406	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0506	インターンシップリテラシー
後期	インターンシップ(総合・生活)	2	30IS0601	インターンシップティーチング

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	26539501	オフィスワークの基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	26539502	オフィスワークの基礎
前期	総合ビジネス・情報	2	22510609	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	22544501	オフィスプレゼンテーション
前期	総合ビジネス・情報	2	22544502	オフィスプレゼンテーション
前期	総合ビジネス・情報	2	22544503	オフィスプレゼンテーション
前期	総合ビジネス・情報	2	26545501	現代社会コミュニケーション論
後期	総合ビジネス・情報	1	22510110	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	22540501	オフィスワーク演習Ⅰ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511109	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	23546501	組織心理学
後期	総合ビジネス・情報	2	23546504	組織心理学
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0205	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0405	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0505	インターンシップリテラシー
後期	リベラルアーツ(生活)	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	講師
教員氏名	鈴木 孔明

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、将来、世の中の役に立つビジネスパーソンを目指す総合ビジネス・情報学科の学生が、社会の役に立つ人材になるために、インプットした知識を自分の頭の中でしっかり理解し、他者に分かりやすく伝えることができるように指導している。

「商品・流通の基礎Ⅰ、Ⅱ」では、なるべく身近なテーマを授業に取り入れ、そのテーマにおいて学生がグループディスカッション、またはプレゼンテーションをすることで、社会に出て即戦力となる知識と発信力を修得することを目指している。

「マーケティング論」では、実践的なマーケティングに関するテーマについて学生自身に調査、研究させ、プレゼンテーションを行わせることによって、自分で調べたマーケティングの知識を誰にでも分かるようにアウトプットできるようになることを目標としている。

また、ゼミナールでの活動では、小田急本厚木ミロードと産学連携事業『湘北夏祭り』を学生に企画、運営させ、学生が大学生活で達成感を得られるように努めている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生に社会において実践的に役立つ力を身に付けさせることであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の2点を重視している。

1) 学生にアウトプットする力を身に付けさせること。

知識を溜め込むだけでなく、発信しているうちに、そこから新たな発想がふと生まれる。ネットなどの情報で誰もがインプット過剰のいま、自分ならではの言葉でアウトプットする力が武器になる時代である。学生自身の頭で考えさせ、学生が自分独自のアイデアを発信できるような授業内容にしていきたい。

2) 学生に自信をつけさせること。

学生に自信を持たせる教育をすることは、卒業後の学生の人生に関わる。教育者のたった一言によって、その後の学生の大きな才能を開花させ得ることは往々にしてある。さまざまな課題を学生に取り組みせ、それを達成した時には、心から褒めて称えることにより、学生の自己肯定感は増す。なるべく多く学生を褒めて肯定してあげる教育を心がけていきたい。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え(教育の理念)を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1)「商品・流通の基礎Ⅰ,Ⅱ」では、学生のアウトプットする力を育むため、授業で教えた専門知識を踏まえて、グループディスカッションを行い、学生自身がアウトプットする時間を持てるように指導している。その後、グループごと代表者に意見を発表してもらい、鋭い指摘や意見の時には、新しい発想、素晴らしい考えということを他の学生にも伝え共有している。

2)「マーケティング論」では、専門知識を伝えるだけでなく、実践的なテーマを与え、学生自身に自ら調査、研究し、発表をさせている。そのことにより、学生のプレゼンテーション能力は日を追うごとに高まっている。良いプレゼンを行った学生には、素晴らしかった点を褒めて他の学生と共有している。

3)ゼミナールでは、小田急本厚木ミロードと産学連携プロジェクトを立ち上げ、学生に来客促進イベント『湘北夏祭り』を企画、運営させるなど、社会に出てより必要とされる実践的な力を身に付けさせている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

○2022年度授業評価アンケート結果は、『商品流通の基礎Ⅱ』について担当している全クラスの平均の先生の教え方のわかりやすさ3.69、授業の満足度3.55であった。この指標は、同授業の前年度(2021年度)の先生教え方のわかりやすさ3.54、授業の満足度3.54よりも上がっている。これは、授業で扱う題材を『LINEスタンプ作成』などの学生が身近でとっつきやすい題材を選んだこと、学生自身が達成感を感じられる題材を選んだことがアンケート結果の向上につながったと考えられる。(添付ファイル『FD研修 授業での取り組み』参照)

○学生支援に関しては、担当ゼミナールの学生の就職内定率は100%であった。これは、内定が決まっていない学生を毎回の授業で確認し、CS課に行くように促したことの成果として挙げられる。

○担当ゼミナールで取り組んだ小田急本厚木ミロードと産学連携プロジェクト『湘北夏祭り』では、予想を上回る来客数となり、各種マスコミ(神奈川新聞2022年7月16日、織研研究新聞、2022年10月21日、雑誌ATSUGI LOVERS vol.39、ローカルTV 鮎チャンネル)で取り上げられた。(各添付ファイル参照)学生が社会に出てすぐに役立つ実践的な学びを得られる機会を創出した。

○官学連携企画として、厚木市・文化生涯学習課 生涯学習推進係と連携し、2023年1月28日社会人向け講座『あつぎ協働大学特別講座』を本学にて開催した。この講座は、『日本の伝統芸能・講談から学ぶ歴史と文化』と題し、主に厚木市在住の社会人19名が参加した。講座後のアンケートの結果、参加者全員に満足して頂き、「定期的で開催してほしい」「また機会があったら参加したい」などという意見が多数みられた。(添付ファイル『あつぎ協働大学 特別講座・アンケート結果』参照)私が今後の教育に関する目標にもかかっている『年齢、国籍、住む場所を問わず、本学で学びたいと思わせるような新たな価値を生み出しうる教育コンテンツを創造していく』を体現する形となった。

○ショップマネジメントコースの学生全員が受験する「公益財団法人 実務技能検定協会・サービス接客検定準1級・2級」においては、コース主任としてプレゼミナールのコース別授業、または、コース必修科目の中で常日頃から受検合格への啓発を行っていた。その結果、例年、安定した合格者を輩出していること、また、協会への本学の貢献(検定試験官研修用DVDに本学学生10名が出演)が高く評価され、本学の「文部科学大臣賞」受賞に至った。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

今後も積極的に相互授業参観、FD研修に参加し、他の教員の良いところ(授業法、討論法、学業評価法、教育機器利用法など)を自身の授業の中に取り入れていくつもりである。また、成果の出るオンライン授業のコンテンツについても、引き続き、研究していくつもりである。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

- 1) インストラクショナルデザインをより深く学び、『プロの教え手』として更なる磨きをかけていく
- 2) アクティブラーニングを積極的に行うことで、学生のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上させる
- 3) 新たなデジタル技術を取り入れることにより、社会に出て即戦力となる知識を習得させる

II. 長期目標

- 1) DX人材を育てるために、どのようなアプローチで授業をしていくべきかを研究する
- 2) オンライン、オンデマンドの教育コンテンツの創造、または活用を研究し、世間に認められるような成果を出していく
- 3) 年齢、国籍、住む場所を問わず、本学で学びたいと思わせるような新たな価値を生み出さる教育コンテンツを創造していく

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【火曜・4限 26525004 [商品・流通の基礎Ⅰ] 鈴木 孔明】

各回の授業の進行の速さは適切でしたか?というアンケートの質問にて、8.3%の学生が適切でなかったという点から、来年度、授業での内容や課題のボリュームを学生によって変えることも考えていきたい。より意欲的に授業に取り組みたい学生に向けて、オプションの課題を提供していきたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【金曜・4限 25538501 [消費者行動論] 鈴木 孔明】

学生自身が、楽しみながら積極的に授業に取り組めるように、アクティブラーニングを毎回の授業で取り入れた。授業の前半を座学にて知識を身に着けさせ、それに関する知識を後半では、グループワークでゲーム形式にし、実践的に学べるような学習素材を多く使用した。

■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【金曜・1限 26506002 [商品・流通の基礎Ⅱ] 鈴木 孔明】

学生にLINEスタンプについて調査させ、実際にLINEスタンプを作成、それをプレゼンさせるというような学生が主体的に取り組める題材を示したことが、授業評価アンケートの向上につながった。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・2限 22511113 [ゼミナールⅢ] 鈴木 孔明】

私が担当するゼミ生の中で2人、修得単位が足りず、卒業要件を満たせない学生が出てしまった。次年度は、ゼミ生1人1人、きめ細かく成績情報を確認し指導をして、その部分もサポートしていきたい。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
✓	教材・配布資料	
✓	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

FD研修『授業での取り組み』
あつぎ協働大学・アンケート結果
神奈川新聞2022年7月16日
織研研究新聞、2022年10月21日
雑誌ATSUGI LOVERS vol.39
鮎チャンネルニュース

・関連リンク・別途資料

<https://drive.google.com/open?id=1FhIDhaV74rko59smlF2iVquBo65uZSH->,
<https://drive.google.com/open?id=10yrr3TCLMe64IH5U8xRNT4qiTVu9esL>,
<https://drive.google.com/open?id=15L1nkdkbR5DLOsbm4Wpp1mcIdLd46CMa>,
<https://drive.google.com/open?id=1LOUxXY2GEMEdFMRlDixWwjMgQpHqhaYL>,
<https://drive.google.com/open?id=1f2v54YoPZj800GyQMw8j25MYrFHv8G2M>,
https://drive.google.com/open?id=1cTDL3KgG_Rpp_qWfOfjwSM4Eusshn1uy

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	26525001	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	26525002	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	26525003	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	26525004	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	2	22510613	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	22532501	マーケティング論
前期	総合ビジネス・情報	2	25538501	消費者行動論
後期	総合ビジネス・情報	1	22510113	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506001	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506002	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506003	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506004	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511113	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	26530001	マーケティング戦略論
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0207	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0407	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0507	インターンシップリテラシー

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	26525001	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	26525002	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	26525003	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	26525004	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	2	22510612	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	22532501	マーケティング論
前期	総合ビジネス・情報	2	25538501	消費者行動論
前期	総合ビジネス・情報	2	26525005	商品・流通の基礎Ⅰ(留)
後期	総合ビジネス・情報	1	22510112	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506001	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506002	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506003	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506004	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511112	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	26506005	商品・流通の基礎Ⅱ(留)
後期	総合ビジネス・情報	2	26530001	マーケティング戦略論
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0206	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0406	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0506	インターンシップリテラシー
後期	リベラルアーツ(生活)	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	講師
教員氏名	畠山 望

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主に国際理解科目と観光ビジネスコースの授業を担当している。2022年度の担当科目は、別記の通りである。

「ジェネラル・イングリッシュI」と「ジェネラル・イングリッシュII」では、基本的な英文法を身に付け、実践的なコミュニケーション能力を獲得することを目指している。英語習熟度が一番低いクラス(L学科の1クラス)を担当しているため、もっとも重要視しているのは、英語に対する苦手意識を無くし、英語を使ってコミュニケーションをとることに楽しみを見出すことである。

「ジェネラル・イングリッシュI・II」では、3か月間オーストラリアに留学する学生が英語の4技能をバランスよく習得することを目指している。教科書に補足する形で、海外で生活するための英語表現や知恵を伝え、留学先での生活をイメージできるように心掛けている。

「外国書講読I」と「外国書講読II」では、中級から上級の難易度の英文の内容を理解することで、英語能力のみならず、文章を根気強く読む力と想像力を養うことを目的としている。英語で書かれた文章を表面的に理解するだけでなく、その背後にある社会的、文化的な情報について考え、知識を深めるトレーニングを行っている。

「TOEIC(初級)」では、英語力とTOEIC受験力の二方向からアプローチしている。学生が3か月でスコアアップを目指し、400点以上を突破できるように、テストの性質を十分に理解させ、基礎力とある程度のテクニックを身に付けることを目的としている。

「外国事情」では、「英語を学ぶ」のではなく、「英語を使って学ぶ」ことを目的とし、学生が英語で書かれた外国の国々の情報を読み解く初めのステップを踏めるような授業を展開している。

ゼミナールでは、異文化理解と異文化コミュニケーションとテーマとして取り上げている。今後ますます多文化共生が進む社会で生きていく学生が、自己と他者を俯瞰的にみることが出来る力を習得することを目的としている。また、2年生の後期(「ゼミナールIII」)では1年間勉強してきたことを卒業論文としてまとめるための思考能力、文章能力、構成力を養うための指導をしている。

課外活動では、国際交流委員会の顧問として、約40人の学生を指導している。国際交流委員会は、湘北短期大学の中で最大級の団体で、年間を通して数多くのイベントを企画・実施している。また、全学組織であるGCセンターの活動にも関わっているため、委員が計画性と責任を持ち、体系的に動くことができる組織作りをすることが重要である。そのため、顧問として、主に4人のリーダーと班長にコミュニケーション力、組織運営力、指導力を身に付けさせることを意識しながら、日々、指導に当たっている。

私の教育の責務は、教育活動を通じて、丁寧に、取り残される学生がないように指導することである。また、小さな自信を積み重ねさせ、自分で考え、前に踏み出す力をつけさせたいと願っている。そのためには、よく個々の学生を観察し、小さな変化や成長に気を配り、時には叱咤激励し、時には成長を評価することが責任であると感じる。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

- 1) 学生が小さな学びと自信を積み重ねて、成長できるように試行錯誤しながら指導すること。
「1. 教育の責任」でも述べた通り、教育活動で最も大事なことは、学生が自信をつけ、自主的に学ぶ姿勢になる道筋をつけることである。そのためにも、学生の状況や習熟度を考慮しながら、一人一人に合った教育方法を模索することが肝要であると考えている。
- 2) 専門知識を修得し、新しく、理解し易い授業を展開できること。
自分の専門分野(英語、異文化理解)のみならず、アクティブラーニングやオンライン教育など、時代のニーズに合った教授法に関する知識を得て、確実に授業に反映するように努める。
- 3) 課外活動を通して、学生が責任感を持ち、達成感を得ることができるよう指導すること。
本学では学業のみならず、課外活動も人間形成の礎だと考えている。学生に課外活動に従事する意義に気付かせ、達成感を味わうことにより、次の企画に対するモチベーションを上げて行く好循環サイクルを創出できるように指導する。学生時代に体系だった課外活動に従事し、企画、準備、運営を行うことは、社会にでてから確実に役立つスキルに直結すると考えている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上記の考えを実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1)「ジェネラル・イングリッシュ」では、英語習熟度の一番下のクラスを担当しているため、学生を褒めることにより、自信をつけさせ、宿題や課題に前向きに取り組むように促している。ゲームを取り入れたり、優秀な解答をした学生にはシール配布したりなど、学びをゲーム感覚で楽しめる仕掛け作りを心がけている。「外国書講読」や「ジェネラル・イングリッシュ」ではタブレット画面をスクリーンを映し出したり、画像・映像を使用することにより、視覚・聴覚に訴えかける工夫している。視覚や聴覚から情報を与えることにより、緩急のある、退屈しない授業づくりをしている。

2)「TOEIC(初級)」では2021年度に引き続き、Wordで作成した配布資料を配った。TOEICを専門に研究している方々の書籍を幅広く購読し、強調すべきポイントや教授テクニックを学んだ。その際に、湘北の学生の習熟度に合わせて情報を取捨選択しながら、資料を作成した。

3)課外活動の指導において、2022年度に意識したのは、「学生に責任感を持たせると同時に、適切に仕事を振る能力をつける」ことである。学友会活動での言動は、自分の所属する委員会だけではなく、学友会全体や他の委員会の学生・教職員にも影響を及ぼす。学友会への提出書類や、リーダーズキャンプに於いての資料や発表内容など、外に出しても支障のない質のものを作成するように指導した。その中でも特に、リーダーズキャンプで使用するPowerPoint資料の添削と委員長の発表の内容とデリバリー(声の大きさ、話すスピード、表情・姿勢、時間の厳守)の指導に力を入れた。教職員や他の学生の貴重な時間をいただいて発表しているからには、正確で、分かり易い発表をするべきだと考えるため、このような指導をした。また、リーダーや班長には、自分たちだけで抱え込まずに、周りの委員に積極的に仕事を振ることを促した。仕事をしてもらうことは、「申し訳ないこと」ではなく、「仕事を振られた委員の成長に繋がる」ということを意識させるようにしている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の「ジェネラル・イングリッシュI」と「ジェネラル・イングリッシュII」の授業評価アンケートを見ると、前期は全体で3.78ポイントであったが、後期は3.43とダウンしていた。また、Q8.「先生の教え方はわかりやすいですか?」と「Q9. 総合的にみてこの授業に満足しましたか?」に関しても、前期はそれぞれ4.0だったが、後期は3.58と3.67とポイントがダウンした。他方、私個人の授業ではないが、2定点観測(4月と1月)に行っているTOEIC BridgeのスコアはB学科が2.9点、(44.3→47.2)、L学科が0.9点(44.2→43.3)とスコアが伸びた。次の項目(5.教育の改善に向けた今後の目標(今後どうするか))にもあるように、さらにスコアアップが望めるように、TOEIC Bridge対策の教材作成のブラッシュアップをしたい。

「TOEIC(初級)」においては、受講生43名の7月と1月のスコアを比較すると、平均68点アップだった。2021年度は、平均41点アップであったため、昨年度より、30点近く点数が上がったことになる。最もスコアアップをした学生は135点スコアアップした。次年度も引き続き、TOEICの対面での教育と「湘北TOEICチャンネル」の開発に最も力を入れる予定である。4ヶ月の受講で、全学生が100点アップすることを目標にし、授業内容を研鑽し、効果的なオンライン教材を開発していきたい。

課外活動については、3年ぶりにエクスチェンジ・プログラムを実施することができた。国際交流委員会に所属する2学年の学生数は40名で、その中でも積極的に活動している学生は15名以下であった。そのような厳しい状況下で、リーダー3人を中心に、15程度の企画を実施することができた。何よりも、学生がエクスチェンジ・プログラムを実際に体験することにより、国際交流活動の楽しさを実感し、来年度の活動のモチベーションに大きく繋がった。その意味において、エクスチェンジ・プログラムを実施できたことは、大きな意味があった。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善の取り組みとして、学内の相互授業参観やFD活動に積極的に参加している。また、他大学の教員とのネットワーク(20名程度)を使い、授業運営についての意見交換を活発に行っている。

TOEICやプレイスメントとして使用するTOEIC Bridgeについては、日々、山形教授と教授法や問題傾向を分析・研究している。2022年度には、TOEICについては、「湘北TOEICチャンネル」の開設した。私は学内や大学周辺で見つけることができるTOEIC頻出単語を紹介する「身近なTOEICシリーズ」の制作を担当しており、目下、動画の本数を増やすべく、撮影と編集を行っている。TOEIC Bridgeについては、「ジェネラル・イングリッシュ」(B学科・L学科)と「英語」(保育)で対策のための教材を作成し、非常勤講師の先生方にご協力いただき、年度末の数回の授業内で対策を行うことができた。2023年度は、TOEIC Bridge対策の内容をさらに充実させるべく、非常勤講師の先生方のフィードバックも聞きながら、学生がスコアアップを狙うことができる教材を開発することを目標としている。

さらに、長期的にはTOEIC対策のためのオンライン教材のみならず、オンラインの英語レメディアル教材の作成を進めたい。そのためには、現在進行中の「湘北TOEICチャンネル」の動画作成を通して、教授法や映像編集のスキルを磨き、知識を蓄積していく必要がある。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

- 1) 授業計画を緻密に立て、緩急のあり、魅力的な授業を実施できるようにする。
- 2) TOEICとTOEIC Bridgeのオンライン教材の開発を進める。
- 3) 「ジェネラル・イングリッシュ」、「保育」のカリキュラムにTOEIC Bridge対策をより効果的に取り入れる。そのための教材を開発する。

II. 長期目標

- 1) 英語に苦手意識を持つすべての学生に「湘北で英語が好きになった」、「わかるようになった」と思ってもらえる授業を引き続き展開する。その一助として、英語レメディアル教材の開発を進める。
- 2) 湘北の学生向けのTOEIC教材(「湘北TOEICチャンネル」)や書籍の開発をさらに進め、内容もブラッシュアップし、LMSで運用できるような体制を整備する。
- 3) 学生に教養レベル以上の多文化社会・異文化理解についての知識をつけ、社会にでてもらえる授業を行う。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜・3限 22552501 [外国書講読 I] 畠山 望】

「外国書講読I」は本学において英語のリーディングを扱う科目としては、最難関の科目である。学生は精度の高い英文を読む解くために、十分に予習して臨み、授業中も板書を確認しながら、忍耐強く取り組まなくてはならない。今年度は、新しいテキストを採用し、より学生が楽しみながら英語講読により組めるような授業作りを心掛けた。しかし、Q6、8、9のスコアが前年度と比べて低い結果となった。評価が下がった理由としては、自由記述でもコメントが散見されるように、板書に情報量が多く、見にくくなってしまった点が挙げられる。後期の「外国書講読II」では、より見やすく、整理された板書を心掛けるようにしたい。また、学生の興味を惹きつけるために、引き続き、テキストの本文に関連した映像や話題を準備し、難易度の高い英文でも楽しめるような工夫をしたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・4限 26GC0501 [ジェネラル・イングリッシュ I・II] 畠山 望】

「ジェネラル・イングリッシュI・II」(SELIC1年生対象)は週2回(30回)実施される授業のため、授業内容に新鮮味が薄れる傾向がある。それに対応するため、今年度は、メインテキストの他に、日常でよく使う英語表現を扱ったサブテキストを採用した。授業の前半と後半でテキストを切り替えることにより、緩急をつけ、学生の興味を惹きつけることができた。またサブテキストで学んだ英語表現を使ってロールプレイを考えさせることにより、より実践的に英語を学習させることができた。その結果、Q6、8、9において前年よりも高いスコアを獲得することができた。

■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・2限 22510110 [ゼミナールⅠ] 畠山 望】

ゼミナールは様々なコースの学生が履修する科目のため、異なるバックグラウンドの学生の興味を引き出し、深い学びへと昇華させるかを考えなければならない。私のゼミは、「異文化理解」をテーマとし、「ゼミナールⅠ」では、日本文化を海外の人たちの眼差しで捉え直す試みをしている。これまで当たり前としてきた知識や現象を考え直すことは、骨の折れる「面倒くさい」作業のため、「ゼミナールⅠ」では、いかにその思考作業に慣れてもらうかがカギとなる。2022年度後期のアンケートを見ると、Q8、Q9、Q10、Q11で概ね高ポイントを獲得することができたが、それにはいくつかの要因が考えられる。過去2年間の経験を活かし、難易度の高いトピックと低いトピックを交互に入れるようなシラバスを作成した。また、映像でトピックを概観してもらう回と、論文を読み、より深い学びを得る回を作った。さらには、トピックとトピックの関連性を意識してもらうため、頻繁に振り返りの時間を設けた。このような工夫があり、学生たちが異文化理解に興味を持ち、「学べた」という実感に繋がったのだと思う。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【火曜・3限 22553002 [外国書講読Ⅱ] 畠山 望】

観光ビジネスコースの中には、TOEICの勉強を積極的に行っている学生がいる一方、英語を不得意とする学生も存在し、英語科目の集大成でもある当該科目では、毎年、このレベルや習熟度の差にどのように対応すべきか苦心している。2022年度後期の全体平均は、3.36と学科で開講されている科目の平均を僅かに上回るポイントであったが、Q8やQ9では、「とてもわかりやすい」や「とても満足」よりも、「おおむねわかりやすい」や「満足」と回答した学生の方が多かった。この授業では、各回で英語講読とDVDの鑑賞(英語のテレビCMの鑑賞)の2種類を扱ったため、時間が足らずに、急ぎ足になることが多かった。学生からのコメントも「スピードが早かった」という趣旨のものが多かった。特に、英語を不得意とする学生や習熟度が低い学生にとっては、満足度の低い授業になってしまったと考える。今後は詰め込みすぎを避け、学生の理解を確認しながら授業を進めることに努めたい。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2	22510611	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	22552501	外国書講読Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	2	22553001	外国書講読Ⅱ(留)
前期	国際理解(生活)	1	26GC0109	ジェネラル・イングリッシュⅠ
前期	国際理解(総合)	1	26GC0501	ジェネラル・イングリッシュⅠ・Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	22510110	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511111	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	22553002	外国書講読Ⅱ
後期	国際理解(生活)	1	26GC0209	ジェネラル・イングリッシュⅡ
後期	国際理解(総合、生活)	1	30GC5002	TOEIC(初級)A
後期	国際理解(総合、生活)	1	30GC5003	TOEIC(初級)A
後期	国際理解(総合・生活)	2	26GC9001	外国事情
前期(集中)	国際理解(全学科)	1・2	26GC6001	海外英語研修

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2	22510610	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2	R4552501	外国書講読
前期	国際理解(生活)	1	26GC0111	ジェネラル・イングリッシュⅠ
前期	国際理解(総合)	1	26GC0501	ジェネラル・イングリッシュⅠ・Ⅱ
前期	国際理解(総合)	2	30GC5001	TOEIC(初級)B
後期	総合ビジネス・情報	1	22510109	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511110	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	31552001	CALL演習
後期	国際理解(生活)	1	26GC0211	ジェネラル・イングリッシュⅡ
後期	国際理解(総合、生活)	1	30GC5002	TOEIC(初級)A
後期	国際理解(総合、生活)	1	30GC5003	TOEIC(初級)A
後期	国際理解(総合・生活)	2	R4GC9001	ベーシック・ビジネス英語
前期(集中)	国際理解(全学科)	1・2	26GC6001	海外英語研修

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	総合ビジネス・情報学科
職名	講師
教員氏名	毛利 香奈子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科に所属しており、主に日本語能力育成に関する科目とキャリア形成の意識を高める科目を担当している。また、兼任担当教員として、総合ビジネス・情報学科と生活プロデュース学科を対象とした日本語コミュニケーション関連・リベラルアーツ科目も担当している。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。

- 1) 社会人として必要な日本語運用能力、コミュニケーション能力と表現力の向上
- 2) 自らの進路を考えるキャリア意識の醸成
- 3) 日本文化について、調査・分析・考察する力の養成

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の教育理念を達成するため、総合ビジネス・情報学科の「言語表現とコミュニケーション」、リベラルアーツ科目の「日本語コミュニケーション」では、社会人として必要な日本語運用能力の向上と仕事に不可欠な語彙力・読解力の向上を目標とし、話し合いの仕方、説明の仕方、発表の仕方、文書作成などについて実践的に学ぶトレーニングを繰り返し行っている。

特に、独りよがりな言葉や文章を発信するのではなく、常に「伝える相手」をイメージして、具体的かつわかりやすい表現を用いる力の養成を目指している。「伝える相手」に共感してもらうという成功体験を積み重ねることで、人前で話をしたり、文章を書いて提出したりすることへの苦手意識を払拭できるような、課題・プログラムを用意している。

総合ビジネス・情報学科の「プレゼミナール」では、自らの力で将来の進路を考えていくキャリア意識の醸成を目標とし、「働くって何?」「情報化社会とビジネス」「私の仕事」「コース別就職講座」「社会で活躍する卒業生に聞く」等々の具体的なテーマを設定している。

総合ビジネス・情報学科の「ゼミナールⅠ」では、日常生活の中に多くある「物語」の存在に注目し、それを深く読み込み、文責・考察する力の養成を目標としている。さらには、物語作品そのものだけでなく、人物・食べ物・場所・キャラクターなどに付与されたストーリーが、その対象にどんな効果をもたらすのかということについても、考えてもらう課題を用意している。いずれにしても、大学のゼミナールならではの、「ひとつの問題を深く掘り下げて取り組む」経験をしてもらうことを心掛けている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2023年度が初年度のため、なし。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

FD研修、授業評価アンケートに目を通し、また各授業での学生の反応も参考にしながら、次年度に生かしていきたい。

具体的には、短期目標として以下のような取り組みをしたいと考えている。

【月曜2限 言語表現とコミュニケーション】

同日4限に「日本語リテラシーⅠ」の授業があり、どうしても内容が似通ってしまうため、明確な差別化をして、学生のモチベーションに努めたい。とくに、TPOにあわせた柔軟な高等での説明を重視し、万全の準備ができていない状態でも人前で話ができるようになることを目指す。

【水曜3限 日本語コミュニケーション】

1年次の「日本語リテラシーⅠ・Ⅱ」の成績がA以上である者に限るという履修条件を設定し、人数も20名までとして、高度な内容の授業を展開し、コミュニケーション能力の向上を目指し授業。

ICTの活用という部分が昨年度の課題として挙げられていたため、読解力・文章表現能力・表現力を磨くだけでなく、それを適切なツールに落とし込んで発信する力を養成できるような授業を展開したい。媒体や対象とする相手によって、自分の言葉や表現をアレンジして発信できる力がつくような、課題・プログラムを工夫していきたい。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

(記載なし)

(記載なし)

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
-----	----	----	-------	-----

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	22547001	言語表現とコミュニケーション
前期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA0001	日本語リテラシー I
前期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA0002	日本語リテラシー I
前期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA0003	日本語リテラシー I
前期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA0004	日本語リテラシー I
前期	リベラルアーツ(総合)	2	22LA0215	日本語リテラシー II(留)
前期	リベラルアーツ(総合・生活)	2	31LA7001	日本語コミュニケーション
後期	総合ビジネス・情報	1	22510113	ゼミナール I
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0201	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0401	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1	26IS0501	インターンシップリテラシー
後期	リベラルアーツ(生活)	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
後期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA0201	日本語リテラシー II
後期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA0203	日本語リテラシー II
後期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA0204	日本語リテラシー II
後期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA0206	日本語リテラシー II
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	2	31LA7002	日本語コミュニケーション

以上